

福井大学大学院医学系研究科 看護学専攻 博士後期課程

Graduate School of Medicine
Division of Nursing Science
Doctoral Program

SYLLABUS

授業要項
2025



目 次

教育研究上の目的	3
カリキュラムポリシー／ディプロマポリシー	4
カリキュラムマップ	5
履修スケジュール	6
履修モデル	7
授業時間割表	8
SDGs 対応一覧表	14
履修について	
授業科目一覧表（カリキュラム）	16
履修の手引き	17
福井大学大学院医学系研究科規程	18
福井大学大学院医学系研究科博士論文審査実施要項	22
授業科目について	
共通科目A	
アドバンストナーシングリサーチ	25
保健医学におけるデータ解析法（量的）	27
保健医学におけるデータ解析法（質的）	29
共通科目B	
アントレプレナーシップ論	32
デザイン思考	34
ヘルステック実践論	36
異文化コミュニケーション	38
地域医療ケア・マネジメント	40
生涯発達とこころ	42
専門科目	
次世代ヘルスケア創生看護学特論	45
次世代ヘルスケア創生看護学演習	47
特別研究科目	
次世代ヘルスケア創生看護学特別研究	50
その他	
キャンパスマップ（松岡）	53
キャンパスマップ（文京）	54
看護学科棟配置図	55

教 育 研 究 上 の 目 的

【医学系研究科における教育研究上の目的】

高度な医学及び看護学の知識を修得し、高い水準の医学研究を遂行できる研究能力や先端的で高度専門的な臨床技術を提供できる実践能力を身につけ、高い倫理観と豊かな人間性のもと、人類の健康福祉と社会福祉に貢献できる医療人を育成することを目的とする。

【博士後期課程 看護学専攻における教育研究上の目的】

高い倫理観と良識のもと、グローカルな視点と多角的・科学的な分析能力を備え、卓越した看護理論・技術と異分野を融合し、データや ICT・ロボット・AI 等を利活用しながら、様々な課題の解決策を国内外に応用する“広域ヘルスケア”及び乳幼児から老年期にいたる生涯を通じた個人の発達を促進させる“生涯発達ヘルスケア”を統合・実践できる研究・教育者、トップリーダーを養成し、看護学の発展と国内外の地域社会に貢献することを目的とする。

カリキュラムポリシー

1. 教育課程の構成・実施の方針

様々な課題に対峙していく卓越した実践能力を有するトップリーダー、国内外の様々な課題に応用できる看護学研究を先導できる研究・教育者を育成するため、以下の方針に則りカリキュラムを編成する。

2. カリキュラム編成

- (1) 工学や社会学、教育学など他の学問領域との融合を図り、データや ICT・ロボット・AI 等の利活用法を習得することにより、研究対象を多角的・科学的に分析する方法を学修する。
- (2) あらゆる年代や地域で生じる様々な健康課題を、“広域ヘルスケア”及び“生涯発達ヘルスケア”双方の視点から解決する方法を探求する。
- (3) 看護学と他の学問領域との融合により、次世代ヘルスケアを創生する看護学研究を遂行し、その成果を社会に還元することを学修する。

3. 学修評価

研究・学修成果の評価は、「福井大学における多面的かつ厳格な成績評価のガイドライン」に基づき評価を行う。

- 共通科目、専門科目、特別研究科目の評価にあたっては、以下の各観点を重視する。
- (1) グローカルな視点に立ち、研究対象を多角的・科学的に分析する方法を習得しているか。
 - (2) 様々な健康課題を、“広域ヘルスケア”及び“生涯発達ヘルスケア”双方の視点から解決する方法を習得しているか。
 - (3) 看護学と他の学問領域との融合により、次世代ヘルスケアを創生する看護学研究を自律して実施し、その成果を社会に還元することを意図しているか。

博士後期課程で実施する教育をより良いものとしていくため、隨時、研究成果について多角的・総合的評価と検証を行い、継続的な改善に努める。

4. 学位論文審査

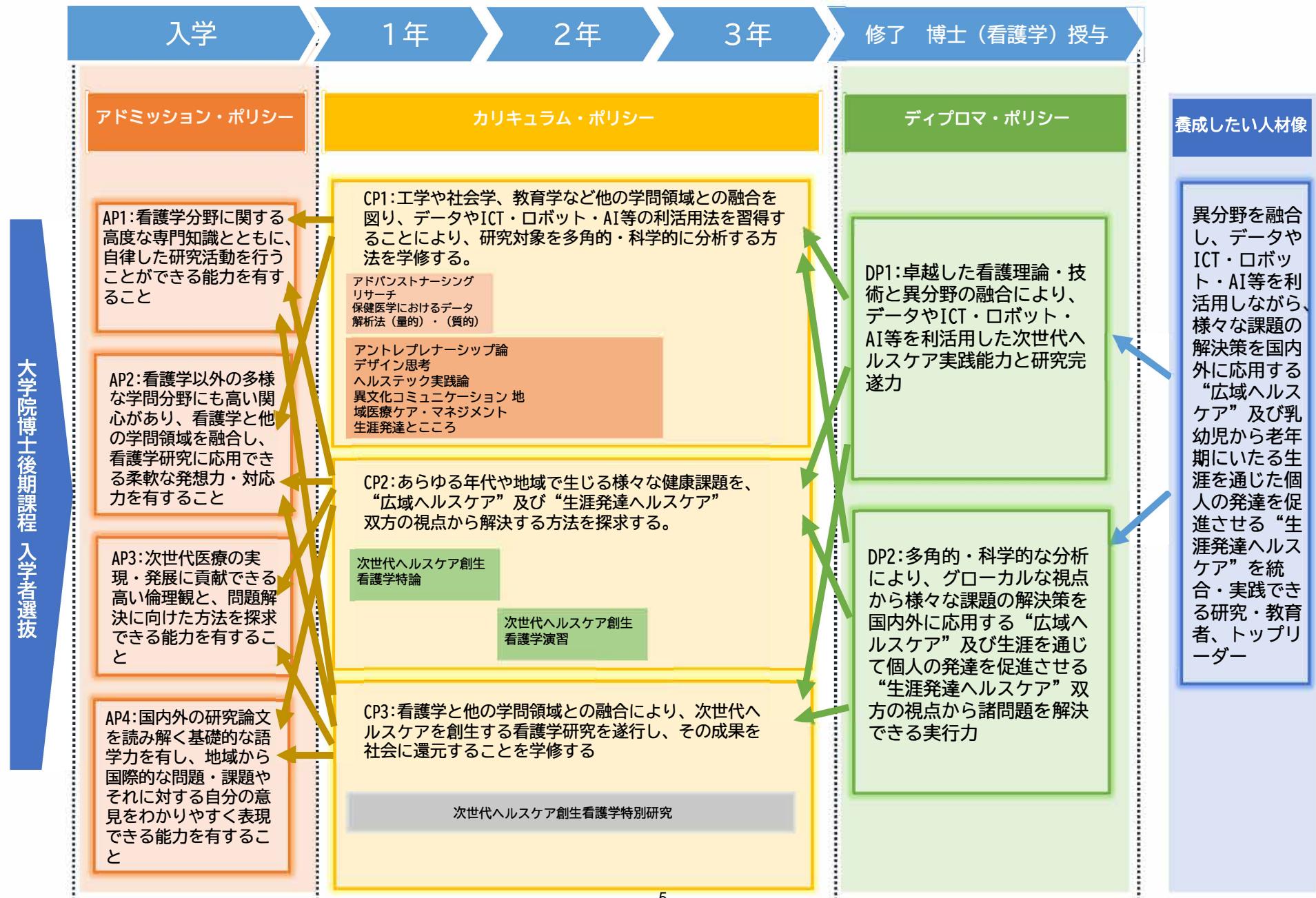
学位論文の審査は学位審査基準にしたがい、論文内容の信頼性及び発展性等の観点から厳格に審査する。

ディプロマポリシー

博士後期課程においては、本学大学院の学位授与方針及び修了後の進路等社会のニーズを踏まえ、所定の年限在籍し、体系的な教育課程により学業を修め、学術的価値を有する国際的学術誌に公表された原著論文に対する審査に合格し、かつ、高い倫理観と良識のもと、卓越高度専門職業人として備えるべき以下の全ての能力を修得した者に対し、博士（看護学）の学位を授与する。

1. 卓越した看護理論・技術と異分野の融合により、データや ICT・ロボット・AI 等を利活用した次世代ヘルスケア実践能力と研究完遂力
2. 多角的・科学的な分析により、グローカルな視点から様々な課題の解決策を国内外に応用する“広域ヘルスケア”及び生涯を通じて個人の発達を促進させる“生涯発達ヘルスケア”双方の視点から諸問題を解決できる実行力

医学系研究科看護学専攻（博士後期課程）カリキュラムマップ



履修スケジュール

履修モデル（標準）			履修モデル（長期履修生）		
年次	月	内容	年次	月	内容
1 年	4月	入学式、入学時ガイダンス 指導教員（主1名、副2名）の決定 前期履修登録	1 年	4月	入学式、入学時ガイダンス 指導教員（主1名、副2名）の決定 前期履修登録
	6月	履修計画及び研究計画指導		6月	研究課題及び研究計画立案
	10月	後期履修登録		10月	後期履修登録
	12月	履修計画及び研究計画指導		12月	履修計画及び研究計画指導
	2月	研究計画発表会	2年	4月	前期履修登録
2 年	4月	前期履修登録	3 年	4月	前期履修登録
	6月	履修計画及び研究計画指導		6月	履修計画及び研究計画指導
	10月	後期履修登録 QE		10月	後期履修登録
	12月	履修計画及び研究計画指導		12月	履修計画及び研究計画指導
			4年	4月	前期履修登録
3 年	4月	前期履修登録	5 年	6月	履修計画及び研究計画指導
	6月	履修計画及び研究計画指導		10月	後期履修登録
	9月	博士審査（予備審査用）提出		12月	履修計画及び研究計画指導
	12月	学位論文審査願、博士学位論文（審査用）提出		4月	前期履修登録
	1月	博士学位論文審査	6 年	6月	履修計画及び研究計画指導
	2月	博士論文発表会（公開発表会と口頭試問）		9月	博士審査（予備審査用）提出
	3月	博士後期課程修了・学位授与		12月	学位論文審査願、博士学位論文（審査用）提出
				1月	博士学位論文審査
				2月	博士論文発表会（公開発表会と口頭試問）
				3月	博士後期課程修了・学位授与

履修モデル（標準）

履修科目名	単位	履修時期		
		1年次	2年次	3年次
共通科目A アドバンストナーシングリサーチ	1			
	1			
共通科目B ヘルステック実践論	1			
	2			
専門科目 次世代ヘルスケア創生看護学特論	2			
	2			
特別研究科目 次世代ヘルスケア創生看護学特別研究	8			
合計	17			

履修モデル（長期履修）

履修科目名	単位	履修時期			
		1年次	2年次	3年次	4・5・6年次
共通科目A アドバンストナーシングリサーチ	1				
	1				
共通科目B ヘルステック実践論	1				
	2				
専門科目 次世代ヘルスケア創生看護学特論	2				
	2				
特別研究科目 次世代ヘルスケア創生看護学特別研究	8				
合計	17				

※実際の履修登録にあたっては、POSコミティーの先生と相談のうえ、決定してください。

令和7年度 大学院医学系研究科 看護学専攻 博士後期課程 授業時間割表

1年次生前期

曜日 時限	1	2	3	4	5	6	7
	8:45~10:15	10:30~12:00	13:00~14:30	14:45~16:15	16:30~18:00	18:00~19:30	19:40~21:10
月				生涯発達とこころ (川口)		次世代ヘルスケア創生看護学特論 (四谷)	生涯発達とこころ (川口)
火				アドバンストナーシングリサーチ (四谷)			※アドバンストナーシングリサーチ (四谷)
水							※ヘルステック実践論 (四谷)
木				地域医療ケア・マネジメント (山村)	ヘルステック実践論 (四谷)		※地域医療ケア・マネジメント (山村)
金			☆アントレプ [®] レナーシップ [®] 論 (注) 文京Cで開講 (竹本)				

注1 ※印は、大学院設置基準第14条に基づく教育方法の特例適用者に係る授業を示す。

2 開講場所は、松岡キャンパスでは3階大学院講義室（特に教員が指定する場合を除く），文京キャンパス開講科目については別に指示する。

3 具体的なスケジュールは別途配布する日数表（講義予定）を参照のこと。

4 ☆印は、文京キャンパスで実施する

令和7年度 大学院医学系研究科 看護学専攻 博士後期課程 授業時間割表

1年次生後期

曜日 時限	1	2	3	4	5	6	7
	8:45~10:15	10:30~12:00	13:00~14:30	14:45~16:15	16:30~18:00	18:00~19:30	19:40~21:10
月				保健医学におけるデータ解析法（量的） (藤田)			※保健医学におけるデータ解析法（量的） (藤田)
火				保健医学におけるデータ解析法（質的） (波崎)			※保健医学におけるデータ解析法（質的） (波崎)
水							
木				次世代ヘルスケア創生 看護学特論 (四谷)			※次世代ヘルスケア創生 看護学特論 (四谷)
金							
土	☆異文化コミュニケーション (注) 文京Cで開講 (磯崎)	☆異文化コミュニケーション (注) 文京Cで開講 (磯崎)					

集中 講義	☆デザイン思考 (注) 文京Cで開講 (竹本)
----------	----------------------------

注1 ※印は、大学院設置基準第14条に基づく教育方法の特例適用者に係る授業を示す。

2 開講場所は、松岡キャンパスでは3階大学院講義室（特に教員が指定する場合を除く），文京キャンパス開講科目については別に指示する。

3 具体的なスケジュールは別途配布する日数表（講義予定）を参照のこと。

4 ☆印は、文京キャンパスで実施する

5 集中講義の日程等は、別途連絡する。

令和7年度 大学院医学系研究科 看護学専攻 博士後期課程 授業時間割表

2年次生前期

時限 曜日	1	2	3	4	5	6	7
	8:45~10:15	10:30~12:00	13:00~14:30	14:45~16:15	16:30~18:00	18:00~19:30	19:40~21:10
月			次世代ヘルスケア 創生看護学演習 (上原 他)			※次世代ヘルスケア 創生看護学演習 (上原 他)	
火							
水							
木							
金							

注1 ※印は、大学院設置基準第14条に基づく教育方法の特例適用者に係る授業を示す。

2 講義の開講場所は、3階大学院講義室（特に教員が指定する場合を除く）。

3 具体的なスケジュールは別途配布する日数表（講義予定）を参照のこと。

令和7年度 大学院医学系研究科 看護学専攻 博士後期課程 授業時間割表

2年次生後期

時限 曜日	1	2	3	4	5	6	7
	8:45~10:15	10:30~12:00	13:00~14:30	14:45~16:15	16:30~18:00	18:00~19:30	19:40~21:10
月			次世代ヘルスケア 創生看護学演習 (上原 他)			※次世代ヘルスケア 創生看護学演習 (上原 他)	
火							
水							
木							
金							

注1 ※印は、大学院設置基準第14条に基づく教育方法の特例適用者に係る授業を示す。

2 講義の開講場所は、3階大学院講義室（特に教員が指定する場合を除く）。

3 具体的なスケジュールは別途配布する日数表（講義予定）を参照のこと。

令和7年度 大学院医学系研究科 看護学専攻 博士後期課程 授業時間割表

3年次生前期

曜日 時限	1	2	3	4	5	6	7
	8:45~10:15	10:30~12:00	13:00~14:30	14:45~16:15	16:30~18:00	18:00~19:30	19:40~21:10
月							
火							
水	次世代ヘルスケア創生看護学特別研究 (四谷 他)				※ 次世代ヘルスケア創生看護学特別研究 (四谷 他)		
木							
金							

注1 ※印は、大学院設置基準第14条に基づく教育方法の特例適用者に係る授業を示す。

2 講義の開講場所は、3階大学院講義室（特に教員が指定する場合を除く）。

3 具体的なスケジュールは別途配布する日数表（講義予定）を参照のこと。

令和7年度 大学院医学系研究科 看護学専攻 博士後期課程 授業時間割表

3年次生後期

曜日 時限	1	2	3	4	5	6	7
	8:45~10:15	10:30~12:00	13:00~14:30	14:45~16:15	16:30~18:00	18:00~19:30	19:40~21:10
月							
火							
水	次世代ヘルスケア創生看護学特別研究 (四谷 他)				※ 次世代ヘルスケア創生看護学特別研究 (四谷 他)		
木							
金							

注 1 ※印は、大学院設置基準第14条に基づく教育方法の特例適用者に係る授業を示す。

2 講義の開講場所は、3階大学院講義室（特に教員が指定する場合を除く）。

3 具体的なスケジュールは別途配布する日数表（講義予定）を参照のこと。

医学系研究科博士後期課程（看護学専攻）のSDGsの取り組み（一覧）

区分	授業科目名	目標1 (貧困)	目標2 (飢餓)	目標3 (保健)	目標4 (教育)	目標5 (ジェンダー)	目標6 (水・衛生)	目標7 (エネルギー)	目標8 (経済成長と雇用)	目標9 (インフラ、産業化、イノベーション)	目標10 (不平等)	目標11 (持続可能な都市)	目標12 (持続可能な生産と消費)	目標13 (気候変動)	目標14 (海洋資源)	目標15 (陸上資源)	目標16 (平和)	目標17 (実施手段)
共通 科目 A	アドバンストナーシングリサーチ			○	○												○	
	保健医学におけるデータ解析法（量的）				○					○								
	保健医学におけるデータ解析法（質的）				○													
共通 科目 B	アントレプレナーシップ論									○								
	デザイン思考									○		○						
	ヘルステック実践論			○	○					○							○	
	異文化コミュニケーション			○					○	○	○			○		○	○	
	地域医療ケア・マネジメント			○														○
専門 科目	次世代ヘルスケア創生看護学特論			○	○													
	次世代ヘルスケア創生看護学演習			○	○													
特別 研究科目	次世代ヘルスケア創生看護学特別研究			○	○											○		

履修について

博士後期課程 授業科目一覧表(カリキュラム)

科目群		授業科目	配当年次	単位数		履修時間数	修得単位
				必修	選択		
共通科目A	アドバンストナーシングリサーチ 保健医学におけるデータ解析法（量的） 保健医学におけるデータ解析法（質的）	アドバンストナーシングリサーチ	1	1		15	指導教員の指導により下記のとおり修得しなければならない。
		保健医学におけるデータ解析法（量的）	1		1	15	
		保健医学におけるデータ解析法（質的）	1		1	15	
共通科目	アントレプレナーシップ論 デザイン思考 ヘルステック実践論 異文化コミュニケーション 地域医療ケア・マネジメント 生涯発達とこころ	アントレプレナーシップ論	1~2		2	30	共通科目A 必修科目 1 単位 選択科目 1 単位以上 共通科目B 必修科目 1 単位 選択科目 1 単位以上 専門科目 4 単位 特別研究科目 8 単位 計 16 単位以上を修得
		デザイン思考	1~2		2	30	
		ヘルステック実践論	1	1		15	
		異文化コミュニケーション	1~2		1	15	
		地域医療ケア・マネジメント	1~2		1	15	
		生涯発達とこころ	1~2		1	15	
専門科目	次世代ヘルスケア創生看護学特論 次世代ヘルスケア創生看護学演習	次世代ヘルスケア創生看護学特論	1	2		30	
		次世代ヘルスケア創生看護学演習	2	2		60	
特別研究科目	次世代ヘルスケア創生看護学特別研究		1~3	8		240	

(注) 教育上必要があるときは、授業科目又は単位数を変更することがある。

看護学専攻履修の手引き

1. 指導体制 (POS) について

博士後期課程では、学生ごとに主指導教員 1 名と副指導教員 2 名以上から成る「Program of Study Committee」（通称：POS コミティ）を構成し、履修指導や論文研究の指導を行います。

主指導教員とよく相談のうえ副指導教員を決定し、自身の研究テーマに沿って研究計画書を作成してください。

2. 履修届の提出

POS コミティでよく相談の後、履修計画を立てて、所定の履修届を4月15日（火）までに提出してください。届出のない授業科目については履修できません。

履修科目を変更するときは、提出した履修届を修正のうえ担当教員の許可を得て、4月22日（火）までに学務課教務担当へ再提出してください。

3. 提出先 福井大学学務部松岡キャンパス学務課 教務担当

電話 0776-61-8247（直通）、0776-61-3111（代表）内線 2141
FAX 0776-61-8162
E-mail: m-kyomu@ml.u-fukui.ac.jp

4. 修了要件

当該課程に3年以上在学（休学期間は除く。）し、所定の授業科目 16 単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、学位論文の審査及び最終試験に合格することとなっています。

所定の授業科目は、医学系研究科規程の別表（教育課程表）で定められており、この条件を満たす必要があります。

学位論文の審査申請等については、別に定める手引きに従ってください。

4. その他

- (1) 大学院学則により、博士後期課程における在学期間は、標準修業年限（3年）の2倍（6年）の年数を超えることができないことになっています。
また、休学期間は、通算して3年を超えることができないことになっています。
このため、入学してから在籍できる期間は、休学期間を含め最長9年間となります。
- (2) 社会人学生の方々に、教育方法の特例措置として、授業科目によっては夜間にも開講しています。
- (3) 諸事情により、授業時間割表と実際の開講時間が異なる場合がありますので、履修届の提出にあたっては、事前に担当教員に確認してください。
- (4) 一部科目について、文京キャンパスで開講する場合やオンラインで実施する場合があります。
別途、教員または学務課から連絡します。

福井大学大学院医学系研究科規程

平成 16 年 4 月 1 日
福大院医規程第 5 号

(趣旨)

第 1 条 福井大学大学院医学系研究科（以下「本研究科」という。）に関する事項は、福井大学大学院学則（平成 16 年福大学則第 2 号。以下「大学院学則」という。）に定めるもののほか、この規程の定めるところによる。

(教育研究上の目的)

第 2 条 大学院学則第 4 条第 3 項に規定する、本研究科における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的については、次のとおりである。

医学系研究科

高度な医学及び看護学の知識を修得し、高い水準の医学研究を遂行できる研究能力や先端的で高度専門的な臨床技術を提供できる実践能力を身につけ、高い倫理観と豊かな人間性のもと、人類の健康福祉と社会福祉に貢献できる医療人を育成することを目的とする。

博士課程

統合先進医学専攻

医科学および生命科学領域において、高度な知識および科学的・論理的思考に基づき、独創性・創造性に優れた研究を遂行し、国際的にも活躍できる自立した研究者の養成、各診療分野で優れた臨床研究能力と先端的で高度な医療技能を備え、高い倫理観と研究マインドを持った臨床医高度専門医療人の養成、並びに地域に貢献ができる臨床研究能力や教育的指導力を備えた質の高い総合診療医・E R 救急医・家庭医を養成することを目的とする。

博士前期課程

看護学専攻

高い倫理観と良識のもと、国際的な視野と科学的な分析能力を備え、高度な看護理論・技術と異分野の融合を見据え、看護学を体系化・深化させる研究を遂行・発信できる研究・教育者、並びに高度な実践能力を備え、地域ヘルスケアを自律して行うことができる看護実践者を養成し、看護学の発展と地域社会に貢献することを目的とする。

博士後期課程

看護学専攻

高い倫理観と良識のもと、グローカルな視点と多角的・科学的な分析能力を備え、卓越した看護理論・技術と異分野を融合し、データや ICT・ロボット・AI 等を利活用しながら、様々な課題の解決策を国内外に応用する“広域ヘルスケア”及び乳幼児から老年期にいたる生涯を通じた個人の発達を促進させる“生涯発達ヘルスケア”を統合・実践できる研究・教育者、トップリーダーを養成し、看護学の発展と国内外の地域社会に貢献することを目的とする。

(研究科長)

第 3 条 医学系研究科に研究科長を置く。

2 研究科長に関し必要な事項は、別に定める。

(教育課程)

第 4 条 開設する授業科目、履修単位数及び履修年次等は、博士課程にあっては、別表 1、博士前期課程にあっては、別表 2、博士後期課程にあっては別表 3 のとおりとする。

(指導教員)

第 4 条の 2 学位論文（博士前期課程にあっては、修士論文又は特定の課題についての研究の成果とする。以下同じ。）の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）を行うため、学生ごとに研究指導担当教員の中から指導教員を定める。ただし、次項の博士後期課程の学生に関する副指導教員にあっては、本学大学院の他の研究科の教員の中からも定めることができるものとする。

2 博士後期課程にあっては、各学生に対し主指導教員 1 名及び副指導教員 2 名以上による P O S コミティ（Program of Study Committee）を構成する。

3 指導教員は、医学系研究科教授会（以下「教授会」という。）において定める。

(修得単位)

- 第5条 博士課程の学生は、別表1に定める授業科目を指導教員の指導により、同表の修得単位欄に定めるとおり30単位以上を修得しなければならない。
- 2 博士前期課程の学生は、別表2に定める授業科目を指導教員の指導により、同表の修得単位欄に定めるとおり30単位以上を修得しなければならない。また、博士前期課程に専門看護師教育課程を置き、専門看護師の資格取得に係る履修科目、修得単位等について、別に定める。
- 3 博士後期課程の学生は、別表3に定める授業科目を指導教員の指導により、同表の修得単位欄に定めるとおり16単位以上を修得しなければならない。
- 4 指導教員が必要と認めた場合は、教授会の議を経て、他の課程又は本学大学院の他の研究科の授業科目を履修させ、これを当該課程で修得した単位とすることができる。ただし、当該修得単位は、修了要件の単位には算入しないもとする。
- 5 博士課程授業科目早期履修制度を利用する者は、教授会の議を経て、大学院の授業科目を履修することができ、博士課程入学後に単位を認定することができる。

(履修の方法等)

- 第5条の2 学生は、別表1、2、3より選択した授業科目を、当該授業科目担当教員及び指導教員の承認を経て、指定する期日までに所定の履修届により届け出なければならない。
- 2 学生は、前項の履修届の提出後に授業科目の変更をしようとするときは、指定する期日までに所定の手続を行わなければならない。
- 3 本研究科は、大学院学則第29条の5第1項の規定に基づき、学生の入学後の各年度に、学生に対し研究指導計画を明示する。

(単位の計算方法)

- 第5条の3 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算する。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲の授業をもって1単位とする。

(単位修得の認定)

- 第5条の4 授業科目の単位修得の認定については、試験その他の方法により授業科目担当教員が行う。

(試験)

- 第6条 試験は、定期試験、追試験及び再試験とする。

- 2 定期試験は、年1回行う。
- 3 追試験は、学生が、病気、災害等やむを得ない理由により定期試験を受験できなかったときに、願い出により行う。この場合において、当該願い出は、当該授業科目担当教員の承認を得て行わなければならない。
- 4 再試験は、定期試験又は追試験を受験し不合格となった学生に対して、願い出により行うことがある。
- 5 試験において不正行為を行った学生に対しては、当該試験を無効とし、大学院学則第43条の規定により懲戒する。

(成績の評価)

- 第7条 試験その他の審査による成績の評価については、評価点又は評価をもって表し、合否の認定は、次の表に掲げる基準により行う。ただし、再試験による評価は、60点以下とする。

評価点	評価	評価基準	認定
100点～90点	秀	目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果を挙げている	合 格
89点～80点	優	目標を十分に達成している	
79点～70点	良	目標を概ね達成している	

69点～60点	可	目標を最低限達成している	
59点～0点	不 可	目標を達成していない	不 合 格

(教育方法の特例)

第7条の2 医学系研究科における授業及び研究指導は、教授会が教育上特別の必要があると認める場合は、夜間その他特定の時間又は時期において行うことができる。

2 前項に規定する教育方法の特例による授業又は研究指導を受けようとする社会人である学生は、指定の期日までに書面をもってその旨医学系研究科長に願い出て、許可を受けなければならない。
(長期履修学生)

第7条の3 学生が、職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することを申し出たときは、教授会の議を経て、長期履修学生としてその計画的な履修を認めることができる。

(学位論文の提出)

第7条の4 学生は、学位論文を指導教員の承認を得て、指定の期日までに、医学系研究科長に提出しなければならない。

2 博士後期課程の学生で、前項の学位論文を提出する者は、別に定める研究基礎力試験（QE；Qualifying Examination）を受験し、合格しなければならない。

(学位論文の審査)

第7条の5 学位論文の審査については、福井大学学位規程（平成16年福大規程第30号）に定めるところによる。

(雑則)

第8条 大学院学則及びこの規程に定めるもののほか、本研究科に関する必要な事項は、医学系研究科長が定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則（平成19年2月15日福大院医規程第1号）

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成20年2月7日福大院医規程第1号）

1 この規程は、平成20年4月1日施行する。

2 平成20年3月31日以前に入学した者は、この規程第2条、別表1及び別表2の規定にかかわらず、なお従前の例による。ただし、看護学専攻の学生が、CNS（がん看護学）科目を履修希望する場合は、選考の上認めることがある。

附 則（平成21年3月12日福大院医規程第1号）

この規程は、平成21年4月1日から施行し、この規程による改正後の福井大学大学院医学系研究科規程は、平成20年10月1日から適用する。

附 則（平成22年6月17日福大院医規程第6号）

この規程は、平成22年10月1日から施行する。

附 則（平成24年2月16日福大院医規程第1号）

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則（平成24年3月15日福大院医規程第2号）

1 この規程は、平成24年4月1日から施行する。

2 平成24年3月31日以前に入学した学生は、この規程にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成25年1月17日福大院医規程第1号）

1 この規程は、平成25年4月1日から施行する。

2 平成25年3月31日以前に入学した学生は、この規程にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成25年3月19日福大院医規程第2号）

1 この規程は、平成25年4月1日から施行する。

2 平成25年3月31日以前に入学した者は、この規程第2条、別表2の規定にかかわらず、なお

従前の例による。

附 則（平成 25 年 6 月 20 日福大院医規程第 3 号）

この規程は、平成 25 年 7 月 1 日から施行する。

附 則（平成 26 年 2 月 13 日福大院医規程第 1 号）

この規程は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 26 年 6 月 19 日福大院医規程第 2 号）

この規程は、平成 26 年 7 月 1 日から施行する。

附 則（平成 27 年 3 月 19 日福大院医規程第 1 号）

この規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 28 年 3 月 17 日福大院医規程第 1 号）

この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 30 年 3 月 7 日福大規程第 31 号）

この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 30 年 9 月 25 日福大規程第 71 号）

この規程は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 31 年 3 月 29 日福大規程第 23 号）

この規程は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（令和 2 年 3 月 2 日福大規程第 39 号）

この規程は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（令和 4 年 2 月 17 日福大規程第 16 号）

この規程は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（令和 4 年 6 月 28 日福大規程第 88 号）

この規程は、令和 4 年 6 月 28 日から施行し、令和 4 年 4 月 1 日から適用する。

附 則（令和 5 年 3 月 6 日福大規程第 16 号）

この規程は、令和 5 年 4 月 1 日から適用する。

附 則（令和 6 年 2 月 21 日福大規程第 2 号）

この規程は、令和 6 年 4 月 1 日から適用する。

附 則（令和 7 年 3 月 19 日福大規程第 8 号）

1 この規程は、令和 7 年 4 月 1 日から施行する。

2 令和 7 年 3 月 31 日以前に入学した者は、なお従前の例による。

別表 1（省略）

別表 2（省略）

別表 3（省略）

福井大学大学院医学系研究科博士後期課程 博士論文審査実施要項

令和7年1月22日
医学系研究科長裁定

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この要項は、福井大学学位規程（平成16年規程第30号。以下「規程」という。）第31条の規定に基づき、福井大学大学院医学系研究科博士後期課程（以下「博士後期課程」という。）における博士の学位に係る学位論文審査の実施に関する取扱いについて必要な事項を定めるものとする。

第2章 博士課程修了による学位論文審査の出願

(出願者の資格及び提出期限)

第2条 規程第3条第2項の規定による学位論文審査を願い出ることができる者は、博士後期課程の最終学年（福井大学大学院学則（平成16年4月1日制定）第38条ただし書の規定に該当する場合を含む。）に在学し、所定の単位を修得し、研究基礎力試験（Qualifying Examination, 以下「QE」という。）に合格した者で、かつ、必要な研究指導を受けた者とする。

2 規程第14条第1項の提出期限は、修了予定日の3ヶ月前とする。この場合において、指導教員が認めるときは、提出期限を猶予することができる。

(出願のための提出書類等)

第3条 規程第14条第1項に規定する提出書類の様式及び部数は、次の各号に掲げるとおりとし、提出する際には、指導教員の承認を得るものとする。

(1) 学位論文審査願（別紙様式第1号）	1部
(2) 論文目録（別紙様式第2号）	4部
(3) 学位論文	4部
(4) 学位論文の要旨（別紙様式第3号）	4部
(5) 雑誌の投稿規定	1部
(6) 履歴書（別紙様式第5号）	1部
(7) 研究業績（別紙様式第6号）	4部
(8) 博士論文のインターネット公表確認書（別紙様式第7号）	1部
(9) 論文剽窃チェック結果の判定通知書（写）	1部

必要に応じて以下を提出

(10) 参考論文	各4部
(11) 共著者同意書（別紙様式第4号）（原本1部、複写3部）	4部（学位論文が共著論文の場合）
(12) 掲載予定証明書	1部（学位論文が未公表の場合）
(13) 博士論文全文の非公表申請書（別紙様式第8号）	1部
(14) 在留カード（写）	1部（外国人の場合）

第3章 学位論文

(学位論文)

第4条 規程第14条第1項の規定により提出する学位論文は、原則として単著とする。ただし、学位論文が共著の場合は、次の各号に掲げる条件を満たしているものとする。

- (1) 学位論文提出者は、筆頭著者であること。
- (2) 学位論文提出者は、他の共著者から当該論文を学位論文として使用しても差し支えない旨の承諾を得ていること。
- (3) 学位論文提出者は、他の共著者が当該論文を学位論文として使用しない旨の承諾を得ていること。
- (4) 学位論文提出者は、その研究において自ら担当した部分を和文による論文形式でまとめた報告書を作成し、その報告書に、研究及び学位論文作成において中心的な役割を果たしたことを明確に記載すること。

2 前項の学位論文は、審査のある学術誌に公表された論文とする。なお、この場合において、審査のある学術誌に公表が予定されているときは、当該編集委員会等の掲載予定証明書により公表論

文とみなすものとする。

- 3 第1項の学位論文は、初回投稿前に剽窃チェックを受け、「修正不要」の判定を受けた論文であること。ただし、やむを得ない事情と認められた場合は、この限りではない。

第4章 学位論文の審査等

(資格等審査)

第5条 福井大学大学院医学系研究科博士後期課程委員会（以下「博士後期課程委員会」という。）は、学位論文提出者の次に掲げる事項について資格等審査を行うものとする。

- (1) 在学年数
- (2) 単位修得状況
- (3) QE の受験状況
- (4) その他必要と認める事項

(学位論文の受理)

第6条 医学系研究科長は、博士後期課程委員会での資格等審査を審議のうえ、学位論文を受理する。
(審査委員会の構成)

第7条 規程第18条第1項に規定する審査委員会は、博士後期課程の研究指導担当教員3名で構成する。

- 2 前項に規定する審査委員会は、博士後期課程委員会において連記無記名投票により選出された2名及び主指導教員1名で構成する。
- 3 前項の審査委員会は、博士後期課程委員会で選出された2名の委員のうち委員の互選により主査1名を置き、主査は審査委員会の総括を行うものとする。
- 4 博士後期課程委員会において必要があると認めるときは、他の研究科等の教員等から、2名以内を審査委員として加えることができる。この場合、当該審査委員候補者の研究歴を含む略歴書により、博士後期課程委員会の議を経て決定する。

(審査基準)

第8条 審査委員会は、論文内容の独創性、先進性及び信頼性等の観点から博士の学位にふさわしいものであるかを審査する。

(最終試験及び学力の確認)

第9条 審査委員会は、規程第19条に規定する最終試験または学力の確認を行うものとする。
(公開発表会)

第10条 審査委員会は、学位論文審査の過程において、学位論文についての公開発表会を開催するものとする。

(学位論文審査等の報告文書)

第11条 規程第21条の規定により審査委員会が博士後期課程委員会に報告する文書の様式は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 学位論文審査の結果の要旨（別紙様式第9号）
- (2) 最終試験の結果の要旨（別紙様式第10号）

(学位授与予定者の決定)

第12条 博士後期課程委員会は、規程第22条の規定により、前条の審査委員会による報告に基づき、学位を授与すべきか否かを審議し、無記名投票により議決するものとする。

- 2 医学系研究科長は、規程第23条の規定により、前項で議決された者を学位授与予定者として学長へ報告する。

第5章 雜則

(雑則)

第13条 この要項に定めるもののほか、学位論文審査の実施に関し必要な事項は、博士後期課程委員会の議を経て、別に定める。

附 則

この要項は、令和7年4月1日から施行する。

授業科目について

【共通科目A】

(必修科目1単位、選択科目1単位以上を修得)

注)「担当教員名」の○印は、単位認定者を表す。

教育研究区分 :	共通科目（共通科目A）			科目番号 :	64CSA101					
単位数 :	1 単位	コマ数	8 コマ	開講時期 :	1 年次 前期					
授業科目名 :					キーワード :					
アドバンストナーシングリサーチ Advanced Nursing Research				看護研究, 研究倫理, EBP, ガイドライン, システマティックレビュー, データベース						
担当教員名	職名／所属			Eメールアドレス						
○四谷 淳子	教授/医学系部門看護学領域			jyotsuya@u-fukui.ac.jp						
佐藤 大介	教授/医学系部門看護学領域			satodai@u-fukui.ac.jp						
上原 佳子	教授/医学系部門看護学領域			uehara@u-fukui.ac.jp						
波崎 由美子	教授/医学系部門看護学領域			yuminami@u-fukui.ac.jp						
青木 未来	講師/医学系部門看護学領域			m-aoki@u-fukui.ac.jp						
平井 孝治	講師/医学系部門看護学領域			hirai-t@u-fukui.ac.jp						
学修目標										
1. 看護学の構築に資する研究手法について看護研究論文の分析を通して学習し、リサーチクエスションに適した研究手法の選択、博士論文の計画立案、実施のための基礎的能力を養う。 2. 看護研究に必要な倫理規定の背景や原則、法規制を踏まえた正しい研究のあり方について理解する。 3. EBP や研究の質、システムティックレビューの内容とプロセスについて理解し、代表的なシステムティックレビューの検索データベース（コクランライブラリーや JBIEBP データベース）を使用してエビデンスを検索できる										
各回の授業の内容										
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)					
1	看護学における研究	看護研究とは何か、看護研究の重要な概念について学修する。			佐藤					
2	看護研究における倫理① ：イングリティとガバナンス	正しい臨床研究のあり方について学修する。			波崎					
3	看護研究における倫理② ：臨床研究の倫理	各種倫理規定の背景と原則、主に看護研究に関連する法規制と内容を学修する。			波崎					
4	エビデンスに基づく実践 (EBP) とプロセス	エビデンス（科学的根拠）や EBP、ガイドラインの有用性とその評価について学修する。 EBP の 5 段階アプローチ、EBP の階層とエビデンスの質について学修する。			上原					
5	レビューとシステムティックレビュー	システムティックレビューの作成手順(PRISMA 声明) や代表的なシステムティックレビューの検索データベース（コクランライブラリーや JBIEBP データベース）について学修する。			平井					
6-7	データベースを使用したエビデンスの検索①② ：データベースの検索	代表的なシステムティックレビューの検索データベース（コクランライブラリーや JBIEBP データベース）を使用し、実際にエビデンスの検索を行う。			青木					
8	データベースを使用したエビデンスの検索③ ：検索結果のプレゼンテーション	検索結果についてプレゼンテーションし、ディスカッションする。			四谷, 佐藤, 青木, 平井					
授業の形式	授業形態									
講義	対面・遠隔（オンデマンド）・遠隔（リアルタイム） 上記の中から併用									

アクティブ・ラーニングの導入状況

- ・実験／演習
- ・プレゼンテーション
- ・グループワーク
- ・ディスカッション

到達目標

1. 看護研究に関する重要な概念を踏まえた看護研究の可能性について説明できる。
2. 看護研究に必要な倫理規定の背景や原則、法規制を踏まえた正しい研究のあり方について説明できる。
3. エビデンスに基づく看護実践とそのプロセスについて説明できる。
4. EBP や研究の質、システムティックレビューの内容とプロセスについて理解し、代表的なシステムティックレビューの検索データベース（コクランライブラリーや JBIEBP データベース）を使用してエビデンスを検索できる。

準備学習（予習・復習）

○予習

1. 文献等から得られた知見や自らの考えを記述した資料を作成したうえで授業に臨む（2 時間／毎回）。
2. 担当教員の指示に従って課題やプレゼンテーション準備に取り組む（5 時間／第 5-8 回）。

○復習

1. 講義資料を復習して学習内容を振り返る（30 分／毎回）。
2. プrezentationされた内容から興味や関心のある文献からさらに探求する（2 時間／毎回）。

成績評価方法

討論の内容、プレゼンテーションやレポートを各教員が評価のうえ、担当教員の合議により総合的に評価する。

1. 到達目標の達成度：討論の内容、プレゼンテーションやレポートにより評価する。
2. 評価方法：討論の内容 20%，プレゼンテーション 40%，レポート 40%
3. 評価の基準：①課題を的確にとらえているか ②内容が一貫しているか ③自己の考えが論理的に述べられているか ④研究方法・研究プロセスを批評し、研究方法に関する探求ができているか ⑤国内外の原著論文を精読し、未知な看護現象を明確化する研究方法の開発などに向け必要な課題の探求ができているか。

成績評価基準

福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。

教科書及び参考書

テキスト：配布資料、講義時に提示

参考図書：1) Denise Polit, Cheryl Beck : Nursing Research, Walters Kluwer, 2022 ISBN13:978-1975110642

その他履修上の注意点等

質問はメールにて受け付けます。

代表者

（氏名・E-Mail）

四谷 淳子・jyotsuya@u-fukui.ac.jp

教育研究区分 :	共通科目（共通科目A）			科目番号 :	64CSA102					
単位数 :	1 単位	コマ数	8 コマ	開講時期 :	1 年次 後期					
授業科目名 :	保健医学におけるデータ解析法（量的） Data Analysis in Health Medicine (Quantitative)				キーワード :					
授業科目名 :	保健医学におけるデータ解析法（量的） Data Analysis in Health Medicine (Quantitative)				量的研究, 多変量解析, 信頼性, 妥当性					
担当教員名	職名／所属		Eメールアドレス							
○佐藤 大介	教授/医学系部門看護学領域		satodai@u-fukui.ac.jp							
藤田 亮介	教授/医学系部門医学領域		rfujita@u-fukui.ac.jp							
宇隨 弘泰	教授/医学系部門医学領域		huzui@u-fukui.ac.jp							
平井 孝治	講師/医学系部門看護学領域		hirai-t@u-fukui.ac.jp							
青木 未来	講師/医学系部門看護学領域		m-aoki@u-fukui.ac.jp							
学修目標										
1. 量的研究とは何かを理解し、看護実践の評価や効果的な看護ケアの開発など看護を科学的に探究する研究能力を養う。 2. 量的研究における倫理的課題について学修し、研究を実施するうえでの倫理的課題に対応する能力を養う。										
各回の授業の内容										
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)					
1	量的研究の概論①	データの要約方法 リスク（前向き観察と後ろ向き観察、コホート研究、患者対照研究など） 予後の推定（予後因子、生存分析、各種バイアス）			佐藤					
2	量的研究の概論②	治療の解析方法（ランダム化比較試験、二重盲検法など） 偶然と結果（統計学的検定法、因果関係、交互作用など） 系統的総説（メタ分析）			宇隨					
3	量的研究における分析方法①	連続量データの比較（t 検定、Wilcoxon 検定） 離散量データの比較（ χ^2 検定）			平井					
4	量的研究における分析方法②	関連性の検討（相関と回帰）			青木					
5	量的研究における分析方法③	多変量有意性検定（一元配置分散分析、二元配置分散分析、多重比較法ほか）			藤田					
6	量的研究における分析方法④	年齢による影響の除去方法（重回帰分析、Mantel-Haenszel 検定ほか）			藤田					
7	量的研究における分析方法⑤	多変量解析（生存分析、多重ロジスティック回帰分析ほか）			藤田					
8	量的研究における信頼性と妥当性 倫理的課題	研究結果の妥当性・信頼性とその評価 倫理的課題と対応			藤田					
授業の形式		授業形態								
講義		対面・遠隔（オンデマンド）・遠隔（リアルタイム） 上記の中から併用								
アクティブラーニングの導入状況										
・演習　　・プレゼンテーション　・グループワーク　　・ディスカッション										

到達目標

1. 自身の研究で必要となる統計学の基本的知識（研究デザイン、統計解析方法、解析結果の解釈など）から応用的知識（統計手法など）について説明できる。
2. 看護研究に伴う倫理的問題を知り、そのためにどのような対応をする必要があるのかを理解し、具体的に説明できる。

準備学習（予習・復習）

○予習

授業前には参考書および資料を十分に読み、内容を理解したうえで講義に臨む（1時間／毎回）。

○復習

1. 講義資料を復習して学習内容を振り返る（30分／毎回）。
2. プレゼンテーションされた内容から興味や関心のある文献からさらに探求する（2時間／毎回）

成績評価方法

討論、プレゼンテーションやレポートを各教員が評価のうえ、担当教員の合議により総合的に評価する。

1. 到達目標の達成度：討論の内容、プレゼンテーションやレポートにより評価する。
2. 評価方法：討論の内容 50%，プレゼンテーション・レポート 50%
3. 評価の基準：①課題を的確にとらえているか ②内容が一貫しているか ③自己の考えが論理的に述べられているか ④統計学の基本的知識から応用的知識について説明できているか ⑤看護研究に伴う倫理的問題に対してどのような対応が必要かを具体的に説明できているか。

成績評価基準

福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。

教科書及び参考書

特に指定しないが、教員が適宜紹介する。

その他履修上の注意点等

質問はメールにて受け付けます。

代表者

(氏名・E-Mail)

佐藤 大介・satodai@u-fukui.ac.jp

教育研究区分 :	共通科目（共通科目A）			科目番号 :	64CSA103
単位数 :	1 単位	コマ数	8 コマ	開講時期 :	1 年次 後期
授業科目名 :	保健医学におけるデータ解析法（質的） Data Analysis in Health Medicine (Qualitative)			キーワード :	質的分析手法、理論化、信頼性、妥当性
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス	
○波崎 由美子		教授/医学系部門看護学領域		yuminami@u-fukui.ac.jp	
嶋 雅代		准教授/医学系部門看護学領域		mashima@u-fukui.ac.jp	
川口 めぐみ		准教授/医学系部門看護学領域		senmegu@u-fukui.ac.jp	
酒井 明子		特命教授/医学系部門看護学領域		sakaiaki@u-fukui.ac.jp	

学修目標

1. 質的研究法を実施するための方法論と解釈法について学修し、研究課題に適した質的分析手法を選択できる能力を養う。
2. 質的研究における倫理的課題について学修し、研究を実施するうえでの倫理的課題に対応する能力を養う。

各回の授業の内容

(回)	(主題)	(学修内容)	(教員)
1	質的研究とは①	質的研究の定義、質的研究の分析過程	波崎
2	質的研究とは②	分析手法の種類とその特性（記述のコード化、モデル構成、理論構築、記述の意味づけ）、混合研究法、アクションリサーチ	川口
3	質的研究におけるデータ収集①	データ収集の方法と特徴、インタビュー技法、インタビューガイド	嶋
4	質的研究におけるデータ収集②	インタビュー演習（グループワーク）	波崎、嶋、川口、酒井
5	質的研究における分析方法①	データの解釈	川口
6	質的研究における分析方法②	分析過程演習（グループワーク）	波崎、嶋、川口、酒井
7	質的研究における信頼性と妥当性 倫理的課題	研究結果の妥当性・信頼性とその評価 倫理的課題と対応	波崎
8	研究課題に適した分析手法の選択	研究手法に関する論文クリティイーク、プレゼンテーション	波崎、嶋、川口、酒井

授業の形式

講義/演習

授業形態

対面・遠隔（オンデマンド）・遠隔（リアルタイム）
上記の中から併用

アクティブ・ラーニングの導入状況

- ・演習
- ・プレゼンテーション
- ・グループワーク
- ・ディスカッション

到達目標

1. 質的研究の代表的な分析手法に関連した用語・概念について説明できる
2. 質的研究の特徴および量的研究との相違点を説明できる。
3. 様々な質的研究の適用範囲・研究成果・限界等の違いを比較し、研究課題に合った質的研究法の選択方法が説明できる。

準備学習（予習・復習）

○予習

授業前には参考書および資料を十分に読み、内容を理解したうえで講義に臨む（1時間／毎回）。

○復習

1. 講義資料を復習して学習内容を振り返る（30分／毎回）。
2. プレゼンテーションされた内容から興味や関心のある文献からさらに探求する（2時間／毎回）。

成績評価方法

討論、プレゼンテーションやレポートを各教員が評価のうえ、担当教員の合議により総合的に評価する。

1. 到達目標の達成度：討論の内容、プレゼンテーションやレポートにより評価する。
2. 評価方法：討論の内容 50%，プレゼンテーション・レポート 50%
3. 評価の基準：①課題を的確にとらえているか ②内容が一貫しているか ③自己の考えが論理的に述べられているか ④質的研究法を実施するための方法論と解釈法について学修し、研究課題に適した質的分析手法を選択できているか ⑤質的研究における倫理的課題への対応について説明できているか。

成績評価基準

福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。

教科書及び参考書

参考書

1. サトウタツヤ他：質的研究法マッピング 特徴をつかみ、活用するために、新曜社、2019. ISBN: 9784788516472
 2. D. F. ポーリット、C. T. ベック、近藤潤子（訳）：看護研究 第2版—原理と方法、医学書院、2010. ISBN: 9784260005265
 3. テッドリー&タシャコリ、土屋敦・八田太一・藤田みさお（訳）：混合研究法の基礎—社会・行動科学の量的・質的アプローチの統合、西村書店、2017. ISBN: 9784890134809
- その他、教員が適宜紹介する。

その他履修上の注意点等

質問はメールにて受け付けます。

代表者

（氏名・E-Mail）

波崎 由美子・yuminami@u-fukui.ac.jp

【共通科目B】

(必修科目1単位、選択科目1単位以上を修得)

注)「担当教員名」の○印は、単位認定者を表す。

教育研究区分 :	共通科目（共通科目B）			科目番号 :	64CSB101
単位数 :	2 単位	コマ数	15 コマ	開講時期 :	1~2 年次 前期
授業科目名 :				キーワード :	
アントレプレナーシップ論 Entrepreneurship				アントレプレナーシップ、スタートアップ、リーダーシップ、メンタリング、コーチング、ベンチャービジネス	

担当教員名

担当教員名	職名／所属	Eメールアドレス
○竹本 拓治	教授／基盤部門（地域創生推進本部）	takemoto@u-fukui.ac.jp
四谷 淳子（コーディネーター）	教授/医学系部門看護学領域	jyotsuya@u-fukui.ac.jp

学修目標

世界には、従来の分野では解決が実現できなかった深刻な課題が多数存在する。そして常に新たな課題が生まれている。従来の技術を応用し、時には様々な技術を結集させ連携することで、その課題解決につながる可能性がある。これがイノベーションの目的であり、それを支えるのがアントレプレナーシップ(起業家精神)である。

本科目では、アントレプレナーシップとイノベーションの関係や、起業の社会的なインパクト、という基礎的な概念を学んだ上で、起業のマーケティングと販路開拓、組織づくりと人材育成、資金調達、財務管理、企業成長段階といった起業の方法や過程を学ぶ。

その上で、ヘルスケアビジネスプランの作成や起業事例研究を通じて、地域を発として、グローバルな市場で勝ち抜くビジネスノウハウを身に付ける。そしてアントレプレナーシップを身につけることにより、地域から世界にイノベーションを起こす人材を輩出することが、本科目の最終的な希望である。

各回の授業の内容

(回)	(主題)	(学修内容)	(教員)
1	オリエンテーション	アントレプレナーシップの学び方；理論的背景、授業の進め方、評価の方法	竹本
2	アントレプレナーシップとイノベーション	アントレプレナーシップの現状とリーダーシップの必要性	竹本
3	起業戦略と社会的インパクト	起業戦略の原義	竹本
4	起業と社会とのかかわりのまとめ	戦略立案に有用なツール・フレームワークとその運用方法	竹本
5	現代社会における起業	医療業界での新規事業立ち上げとマネジメント	竹本
6	起業のマーケティングと販路開拓	起業に関連する基礎的な考え方	竹本
7	起業の組織づくりと人材育成	アントレプレナーの組織づくり	竹本
8	起業の資金調達	アントレプレナーの資金づくり	竹本
9	起業の資金管理	資金の管理	竹本
10	起業のマネジメントのまとめ	ケース・ディスカッション	竹本
11	デザインワークショップの実施①	ビジネスプラン作成ワーク	竹本
12	デザインワークショップの実施②	ビジネスプラン発表及び発表チームの評価	竹本
13-14	産学連携授業①②	外部有識者による講義・組織デザインと方法論	竹本
15	まとめ	全体ディスカッション 振り返りと今後の課題	竹本

授業の形式	授業形態
講義 講義形式ですすめるが、科目的性質上、アントレプレナーシップ、リーダーシップ養成に関する授業外活動を必須とする。必要に応じてグループ討論を取り入れる。	対面授業 ※基本は対面とするが、必要に応じオンデマンド授業回とすることがある。

アクティブ・ラーニングの導入状況

- ・実験／演習
- ・プレゼンテーション
- ・グループワーク
- ・ディスカッション

※地域企業・団体等を交えた産学連携を伴う実践活動を行う。

到達目標

アントレプレナーシップとは何かを理解し、新規企画や政策、ビジネスをプロデュースできる力を身につける。

準備学習（予習・復習）

○予習：各回の授業前に経済に限らず、時事話題全般のニュースを確認しておくこと。

○復習：テーマ毎の内容を整理すること

成績評価方法

1. 到達目標の達成度：討論の内容、プレゼンテーションやレポートにより評価する。
2. 評価方法：討論の内容 50%，レポート 50%
3. 評価の基準：①課題を的確にとらえているか ②内容が一貫しているか ③自己の考えが論理的に述べられているか ④アントレプレナーシップ（リーダーシップやメンタリング、コーチングスキルを含む）とは何かを理解し、新規企画や政策、組織づくりと人材育成の方法や過程を説明できているか。

成績評価基準

福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。

教科書及び参考書

（参考書）三枝省三・竹本拓治編著「アントレプレナーシップ教科書」中央経済社、2016年

その他履修上の注意点等

本授業では実際のアントレプレナーシップ（リーダーシップやメンタリング、コーチングスキルを含む）養成のための学外活動を取り入れ、単位習得に関し必須要件とする。

代表者

（氏名・E-Mail）

竹本 拓治・takemoto@u-fukui.ac.jp

教育研究区分 :	共通科目（共通科目B）			科目番号 :	64CSB102
単位数 :	2 単位	コマ数	15 コマ	開講時期 :	1~2 年次 後期
授業科目名 :					キーワード :
	デザイン思考 Design Thinking				イノベーション、人材育成、ものづくり・産業振興・技術経営、持続可能な社会・環境づくり
担当教員名	職名／所属		Eメールアドレス		
○竹本 拓治	教授/基盤部門（地域連携推進本部）		takemoto@u-fukui.ac.jp		
四谷 淳子（コーディネーター）	教授/医学系部門看護学領域		jyotsuya@u-fukui.ac.jp		

学修目標

ものづくりを中心とした福井の産業は、小さいけれどきらりと光る技術や、ビジネスモデルのイノベーションに成功している企業が多くある。それら企業の成功までの経余曲折や、独特の企業文化を学び、そこから医療・ヘルスケアにデザイン思考を取り入れ、イノベーションを起こしていくためのメソッドを学ぶ。

各回の授業の内容

(回)	(主題)	(学修内容)	(教員)
1	デザイン思考の導入	「ふくいはすごい」福井のイノベーション総論	竹本
2	デザイン思考の考え方	匠をデザインする—ものづくりの原点をデザイン思考でイノベートする	竹本
3	デザイン思考の基本的概念	起業という選択—ふくいには絶好の条件がそろっている	竹本
4	デザイン思考の実践①	製造、サービスなどの品質を支えるQCの取組み	竹本
5	デザイン思考の実践②	ヘルスケア産業を支える技術—繊維関連企業に学ぶ	竹本
6-8	ワークショップ	グループワークによるデザイン思考の実践と習得課題発見・問題定義	竹本
9	デザイン思考の応用例①	衣料から医療へ「下町ロケット2 リアルガウディ計画」への挑戦	竹本
10	デザイン思考の応用例②	スマートフォンを支えるナノ技術	竹本
11-13	ワークショップ	グループワークによるデザイン思考の実践と習得アイデア創出・プロトタイピング・検証	竹本
14	デザイン思考の応用例③	繊維で防災—ジオテキスタイルの先導者	竹本
15	日本をリードする福井という地域のイノベーション	これまでの知見を総括し、様々な応用例から今後の活用にむけた課題を深める	竹本
16	まとめ・プレゼンテーション	第1回～第15回の内容を踏まえ、これまでの知見を看護にどのように生かすか皆で検討する。	竹本・四谷

授業の形式	授業形態
講義	対面授業

アクティブラーニングの導入状況

- ・演習
- ・プレゼンテーション
- ・グループワーク
- ・ディスカッション

※企業調査等の学外実習と報告を含む授業とする。

到達目標

- ・イノベーションを生んだ背景を学び、主体的に課題を発見し解を見いだす能力を身につける。
- ・ふくいの特色や強みを理解して、自らの学修に役立てる。

- ・地方の中小企業の多様性、グローバル化の重要性を理解して自らの研究に活かす。
- ・普段会えない経営者との直接対話を通して学び、多様な人々との出会いを今後に活かす。

準備学習（予習・復習）

○予習：テーマに示された内容・外部講師の所属企業について、下調べしておく。

○復習：講義で示された事例について、まとめるとともに、不明な点を調べ、理解を深める。

成績評価方法

1. 到達目標の達成度：討論の内容、プレゼンテーションやリアクションペーパーにより評価する。
2. 評価方法：討論の内容・プレゼンテーション 50%， リアクションペーパー50%
3. 評価の基準：①課題を的確にとらえているか ②内容が一貫しているか ③自己の考えが論理的に述べられているか ④イノベーションを生み出すための、課題の発見やその解決法を説明できているか。

成績評価基準

福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。

教科書及び参考書

資料を印刷し、配布する。必要に応じ、関連図書を紹介する。

その他履修上の注意点等

質問はメールにて受け付けます。

代表者

(氏名・E-Mail)

竹本 拓治・takemoto@u-fukui.ac.jp

教育研究区分 :	共通科目（共通科目B）			科目番号 :	64CSB103					
単位数 :	1 単位	コマ数	8 コマ	開講時期 :	1 年次 前期					
授業科目名 :	<p>ヘルステック実践論 Practical Healthtech</p>				キーワード :					
授業科目名 :	<p>ヘルステック実践論 Practical Healthtech</p>				生体モニター、ロボット、ICT、VR 看護 理工学					
担当教員名	職名／所属		Eメールアドレス							
○四谷 淳子	教授/医学系部門看護学領域		jyotsuya@u-fukui.ac.jp							
佐藤 大介	教授/医学系部門看護学領域		satodai@u-fukui.ac.jp							
井上 博行	教授/人文社会系部門総合グローバル領域		inoue@u-fukui.ac.jp							
長宗 高樹	非常勤講師		nagamune@u-fukui.ac.jp							
学修目標										
ヘルステックは、健康（ヘルス）と技術（テクノロジー）を融合した言葉であり、医学と工学の双方を含んだ幅広い領域にわたる。本講義では、看護学の臨床ニーズと工学技術（データ、ICT、ロボット、AIなど）を融合させ、臨床や地域のヘルスケアに還元できる看護ケア技術や機器・システムを開発するために必要な基礎知識の習得を目指す。さらに、データ、ICT、ロボット、AIなどを活用するための方法論を理解し、自らの研究に応用する能力を養う。										
各回の授業の内容										
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)					
1	看護における工学的アプローチ	意義、工学的開発研究の構成、機器機械を用いた開発研究の手法について			四谷					
2	生体情報計測の基礎知識	医療用機器・センサー（血圧計・体温計・パルスオキシメーターなど）			長宗					
3	非侵襲的な健康モニタリング	ウェアラブル生体・環境センサー・光音響計測技術			長宗					
4	人々を支援するロボット	医用福祉ロボット			長宗					
5	ヘルスケアに対する AI・ICT の活用	ソフトコンピューティングや AI 手法に基づいた分析			井上					
6	看護技術開発における工学技術の活用 ①	可視化装置の活用（AI 搭載型エコー：体圧センサなど）			四谷					
7	看護技術開発における工学技術の活用 ②	災害看護における VR の活用 がん患者の憎悪予防への遠隔看護システム 大災害時における ICT の活用			佐藤					
8	次世代ヘルスケアへの応用と発展	工学技術を基にした次世代ヘルスケアへ応用できる医療機器・健康機器など看護技術開発への応用と発展について討論			四谷・佐藤・長宗・井上					
授業の形式		授業形態								
講義		対面・遠隔（オンデマンド）・遠隔（リアルタイム） 上記の中から併用								
アクティブラーニングの導入状況										
・演習 ・プレゼンテーション ・ディスカッション										
到達目標										
1. 看護における工学的アプローチの概念と研究方法が理解できる。 2. 医療機器・健康機器用に使用されるセンサー技術が理解できる。 3. 看護ケアに活用するための人工知能技術の基礎が理解できる。										

4. 看護学に工学を活用した看護技術開発が理解できる。
5. 看護と工学を融合した次世代ヘルスケアへの応用と発展について思考できる。

準備学習（予習・復習）

○予習：各回の授業内容に示しているキーワードを一通り調べること授業に臨む（1時間／毎回）。

○復習：講義資料を復習して学習内容を振り返る（30分／毎回）。

成績評価方法

討論の内容、プレゼンテーションやレポートを各教員が評価のうえ、担当教員の合議により総合的に評価する。

1. 到達目標の達成度：討論の内容、プレゼンテーションやレポートにより評価する。
2. 評価方法：討論の内容 50%，プレゼンテーション・レポート 50%
3. 評価の基準：
 - ①課題を的確にとらえているか
 - ②内容が一貫しているか
 - ③自己の考えが論理的に述べられているか
 - ④看護における工学的アプローチと研究方法を理解し、工学技術を基にした医療機器・健康機器など看護技術の研究開発に必要となる技術や考え方が論述できているか。

成績評価基準

福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。

教科書及び参考書

特に指定しないが、教員が適宜紹介する。

<参考書>

真田弘美、森武俊：看護理工学、東京大学出版会、2015.

その他履修上の注意点等

質問はメールにて受け付けます。

代表者

（氏名・E-Mail）

四谷 淳子・jyostuya@u-fukui.ac.jp

教育研究区分 :	共通科目 (共通科目B)			科目番号 :	64CSB104
単位数 :	1 単位	コマ数	8 コマ	開講時期 :	1~2 年次 後期
授業科目名 :	異文化コミュニケーション Intercultural Communication				キーワード :
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス	
○磯崎 康太郎		教授／教育・人文社会系部門総合 グローバル領域		isozaki@u-fukui.ac.jp	
清水 麻友美		講師／教育・人文社会系部門総合 グローバル領域		cw-fukui@u-fukui.ac.jp	
生駒 俊英		非常勤講師		ikoma@u-fukui.ac.jp	
青木 未来 (コーディネーター)		講師／医学系部門看護学領域		m-aoki@u-fukui.ac.jp	

学修目標

- グローバル化の中で変容する地域社会の現状と課題を理解し、地域から見た視点、および異なった社会的文脈にあるグローバルな視点の双方から課題解決の方向性を理解するための基礎的能力を養う。
- 英語文献や資料の読解能力・プレゼンテーション能力を養う。

各回の授業の内容

(回)	(主題)	(学修内容)	(教員)
1	国民と歴史をめぐる欧洲諸国の現状	近年欧洲において顕著となっている国民や愛国心をめぐる問題の背景について考え、現在の欧洲諸国における社会事情について理解を深める。	磯崎
2	欧洲諸国における家族制度	欧洲諸国における家族制度（婚姻制度・離婚制度）について、それぞれの歴史的な背景や変遷を踏まえ理解する。	生駒
3	欧洲諸国における家族政策	欧米諸国において、少子高齢化や子どもの貧困問題といった問題に対して、国としてどのような対策がとられているのか、その家族政策について概観する。	生駒
4	新たな問題に対する対応	近時、日本でも議論がなされている LGBT に関する問題等、新たにクローズアップされている問題を概観し、欧洲諸国においてどのような対応がなされているのかを理解する。	生駒
5	ブラジルにおける人種と社会 1 —多人種多民族国家ブラジル—	多人種多民族国家・ブラジルについて、その基礎知識と人種をめぐる議論の概要を把握する。	清水
6	ブラジルにおける人種と社会 2 —人種をめぐる歴史—	ブラジルの人種・民族的多様性が形成された歴史的経緯について学ぶ。	清水
7	ブラジルにおける人種と社会 3 —人種と社会経済格差—	多様性が社会経済格差として表面化する、現代のブラジル社会を理解する。	清水
8	ブラジルにおける人種と社会 4 —アフアーマティブ・アクション—	これまで学び調べたことをもとに、ブラジルにおける、社会経済格差の現状とアフアーマティブ・アクションの課題についてディベートを行う。	清水

授業の形式	授業形態
講義	対面・遠隔（オンデマンド）・遠隔（リアルタイム） 上記の中から併用
アクティブラーニングの導入状況	
・実験・実習・プレゼンテーション・グループワーク・ディスカッション	
到達目標	
1. グローバル化における地域社会の役割や課題、社会経済格差の現状と異文化コミュニケーションの課題について説明できる。 2. 英語文献や資料を読み解し、英語によるプレゼンテーションができる。	
準備学習（予習・復習）	
○予習 1. 授業前には英語文献や資料を十分に読み、興味のあるテーマや国内外の文献、ニュースなどについて調べる (1時間／毎回) 2. 担当教員の指示に従って課題やプレゼンテーション（英語でのプレゼンテーションを含む。）準備に取り組む (5時間／第5-8回)	
○復習 1. 講義資料を復習して学習内容を振り返る(30分／毎回)。 2. プrezentationされた内容から、興味や関心のある文献をさらに探求する(2時間／毎回)	
成績評価方法	
討論の内容、プレゼンテーションやレポートを各教員が評価のうえ、担当教員の合議により総合的に評価する。 1. 到達目標の達成度：討論の内容、プレゼンテーションやレポートにより評価する。 2. 評価方法：討論の内容 50%、プレゼンテーション・レポート 50% 3. 評価の基準：①課題を的確にとらえているか ②内容が一貫しているか ③自己の考えが論理的に述べられているか ④グローバル化における地域社会の役割や課題、社会経済格差の現状と異文化コミュニケーションの課題について説明できているか ⑤英語文献や資料を読み解し、英語でのプレゼンテーションができているか	
成績評価基準	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。	
教科書及び参考書	
特に指定しないが、教員が適宜紹介する。	
その他履修上の注意点等	
質問はメールにて受け付けます。	
代表者 (氏名・E-Mail)	磯崎 康太郎・isozaki@u-fukui.ac.jp

教育研究区分 :	共通科目（共通科目B）			科目番号 :	64CSB105				
単位数 :	1 単位	コマ数	8 コマ	開講時期 :	1~2 年次 前期				
授業科目名 :				キーワード :					
地域医療ケア・マネジメント Community Health Care and Management				地域医療、保健医療、プライマリヘルス、 地域包括ケアシステム、災害看護、地域 看護					
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス					
○宇隨 弘泰		教授／医学系部門医学領域		huzui@u-fukui.ac.jp					
山村 修（医）		教授／医学系部門医学領域		kapi@u-fukui.ac.jp					
酒井 明子		特命教授／医学系部門看護学領域		sakaiaki@u-fukui.ac.jp					
北野 華奈恵		講師／医学系部門看護学領域		kyoshi@u-fukui.ac.jp					
学修目標									
1. 疾病予防対策、医療保険制度、医療提供体制、医療評価など、種々の健康・医療に関わる制度・政策の背景並びに立案・実施、社会への影響について、様々なステークホルダーの立場、関連の法令、費用負担のあり方などを講義をもとに学習するとともに、実際の事例をとおして理解を深める。									
各回の授業の内容									
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)				
1	保健医療の現状と課題①	世界、および日本の保健医療対策、制度、体制、政策などの現状と課題を学修する。			宇隨				
2	保健医療の現状と課題②	プライマリケア、地域包括ケアシステムなど、地域医療に必要な概念や必要性などを学修する。			宇隨				
3	地域医療の課題と取り組み①	日本の保健医療の発展過程や近年、大きな問題となっている地域医療の崩壊について学修する。			山村				
4	地域医療の課題と取り組み②	地域医療における課題に対する実際の取り組みについて学修する。			山村				
5	地域医療の課題と取り組み③	地域医療について現地で見学し、プライマリヘルスや家族志向型・地域包括ケアの実際を学修する。			山村				
6	社会における地域医療・看護の実践①	かかりつけ医の役割やかかりつけ医による医療の実際にについて学修する。			宇隨				
7	社会における地域医療・看護の実践②	災害時における地域医療の現状と課題について学修する。			酒井				
8	社会における地域医療・看護の実践③	福井県の強みを活かした地域看護活動の実際について学修する。			北野				
授業の形式			授業形態						
講義			対面・遠隔（オンデマンド）・遠隔（リアルタイム） 上記の中から併用						
アクティブラーニングの導入状況									
・実験 　・演習 　・プレゼンテーション 　・グループワーク 　・ディスカッション									

到達目標

1. 国内外の保健医療、地域医療に関する対策、制度、体制、政策などの現状と課題について踏まえたうえで、プライマリヘルスや地域包括ケアシステムの必要性について説明できる。
2. 地域医療、地域看護活動の実際について説明できる。

準備学習（予習・復習）

○予習

1. 授業前には文献や資料を十分に読み、興味のあるテーマや国内外の文献、ニュースなどについて調べる（1時間／毎回）
2. 担当教員の指示に従って課題やプレゼンテーション準備に取り組む（5時間／第5-8回）

○復習

1. 講義資料を復習して学習内容を振り返る（30分／毎回）。
2. プrezentationされた内容から興味や関心のある文献からさらに探求する（2時間／毎回）。

成績評価方法

討論の内容、プレゼンテーションやレポートを各教員が評価のうえ、担当教員の合議により総合的に評価する。

1. 到達目標の達成度：討論の内容、プレゼンテーションやレポートにより評価する。
2. 評価方法：討論の内容 50%，プレゼンテーション・レポート 50%
3. 評価の基準：①課題を的確にとらえているか ②内容が一貫しているか ③自己の考えが論理的に述べられているか ④プライマリヘルスや地域包括ケアシステムの必要性について説明できているか ⑤地域医療、地域看護活動の実際について説明できているか

成績評価基準

福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。

教科書及び参考書

特に指定しないが、教員が適宜紹介する。

その他履修上の注意点等

質問はメールにて受け付けます。

代表者

(氏名・E-Mail)

宇隨 弘泰・ huzui@u-fukui.ac.jp

教育研究区分 :	共通科目（共通科目B）			科目番号 :	64CSB106						
単位数 :	1 単位	コマ数	8 コマ	開講時期 :	1~2 年次 前期						
授業科目名 :				キーワード :							
生涯発達とこころ Lifelong development and psychology			生涯発達, 発達理論, 発達心理学								
担当教員名	職名／所属		Eメールアドレス								
岸 俊行	教授/人文社会系部門 教員養成領域		t-kishi@u-fukui.ac.jp								
○川口 めぐみ	准教授/医学系部門看護学領域		senmegu@u-fukui.ac.jp								
梅田 尚子	講師/医学系部門看護学領域		numeda@u-fukui.ac.jp								
平井 孝治	講師/医学系部門看護学領域		hirai-t@u-fukui.ac.jp								
学修目標											
1. 人間の発達を生涯発達の視点からとらえ、受胎から死亡までの発達に関する種々の理論構築の背景となった実証的研究を理解し、看護へ応用する基礎的能力を養成する。 2. 発達心理学および国内外の文化的背景の観点を踏まえ、発達に関する諸理論を深く探究することで、人々が抱える問題を理解し、看護を実践するための基礎的能力を習得する。											
各回の授業の内容											
(回)	(主題)	(学修内容)		(教員)							
1	生涯発達とは	生涯発達と健康問題		川口							
2	人間の発達	人の発達と発達の理論		岸							
3	発達と環境	発達における環境・文化的背景の重要性		岸							
4	こころを探る 1	こころの測定とこころの支援		岸							
5	こころを探る 2	様々な心理支援方法 精神力動アプローチ、認知行動アプローチ、人間性アプローチ、ナラティブアプローチ		岸							
6	生涯発達の観点からの支援 1	発達障害をもつ人とその家族への看護支援		平井							
7	生涯発達の観点からの支援 2	疾患をもつこどもとその親への看護支援		梅田							
8	生涯発達の観点から人間を捉えるには	課題についてのプレゼンテーション・ディスカッション		岸, 川口, 梅田, 平井							
授業の形式		授業形態									
講義・演習		対面・遠隔（オンデマンド）・遠隔（リアルタイム） 上記の中から併用									
アクティブ・ラーニングの導入状況											
・演習　　・プレゼンテーション　・グループワーク　　・ディスカッション											
到達目標											
1. 人間の受胎から死亡までの各段階の発達およびこころの特徴を生涯発達の観点から説明できる。 2. 生涯発達に関する諸理論の特徴や関係性、相違について説明できる。 3. 人間の成長・発達上の問題を歴史的、社会・文化的、生態学的に分析し、説明できる。											
準備学習（予習・復習）											
○予習 授業前には参考書および資料を十分に読み、内容を理解したうえで講義に臨む（1 時間／毎回）。											
○復習 1. 講義資料を復習して学習内容を振り返る（30 分／毎回）。 2. プrezentationされた内容から興味や関心のある文献からさらに探求する（2 時間／毎回）											

成績評価方法

討論の内容、プレゼンテーションやレポートを各教員が評価のうえ、担当教員の合議により総合的に評価する。

1. 到達目標の達成度：討論の内容、プレゼンテーションやレポートにより評価する。
2. 評価方法：討論の内容 50%，プレゼンテーション・レポート 50%
3. 評価の基準：①課題を的確にとらえているか ②内容が一貫しているか ③自己の考えが論理的に述べられているか ④各段階の発達およびこころの特徴を生涯発達の観点から説明できているか ⑤生涯発達に関する諸理論の特徴や関係性、相違について説明できているか ⑥人間の成長・発達上の問題を歴史的、社会・文化的、生態学的に分析し、説明できているか

成績評価基準

福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。

教科書及び参考書

参考書

1. 上田礼子著：生涯人間発達学、改定第 2 増補版、三輪書店、2012. ISBN : 9784895903998
2. 服部祥子著：生涯人間発達論 第 3 版：人間への深い理解と愛情を育むために、医学書院、2020,
ISBN : 9784260041331
その他、教員が適宜紹介する。

その他履修上の注意点等

質問はメールにて受け付けます。

代表者

(氏名・E-Mail)

川口 めぐみ・senmegu@u-fukui.ac.jp

【専 門 科 目】

(必修2科目4単位修得)

注)「担当教員名」の○印は、単位認定者を表す。

教育研究区分 :	専門科目			科目番号 :	64SUB101					
単位数 :	2 単位	コマ数	15 コマ	開講時期 :	1 年次 通年					
授業科目名 :	次世代ヘルスケア創生看護学特論 Advanced Nursing Science for Next Generation Health Care: Lecture				キーワード : 看護研究, 看護理論, 異分野融合, 次世代ヘルスケア					
担当教員名	職名／所属		Eメールアドレス							
○四谷 淳子	教授／医学系部門看護学領域		jyotsuya@u-fukui.ac.jp							
佐藤 大介	教授／医学系部門看護学領域		satodai@u-fukui.ac.jp							
川口 めぐみ	准教授／医学系部門看護学領域		senmego@u-fukui.ac.jp							
嶋 雅代	准教授／医学系部門看護学領域		mashima@u-fukui.ac.jp							
学修目標										
1. 学際的・異分野融合的研究領域の進展に伴い、学際的な視野を持つ優れた研究者を養成するために自己にとっての異分野とは何かを最新の学問の進展を俯瞰的に理解し、学際的・横串的な視野の重要性を理解する。 2. 共通科目で得た工学的技術の基礎的知識や方法論を基に、看護理論・技術と異分野を融合した看護技術・ケアシステムの開発や社会実装への方策、そしてそれらを学際的に発展、体系化させる方法を探求し、理解する。										
各回の授業の内容										
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)					
1	看護における異分野融合	看護科学の歴史と異分野融合の意義、異分野融合による将来像や可能性について学修する。			四谷					
2	看護と次世代ヘルスケア	看護におけるデータや ICT 等の技術革新の積極的な導入、費用対効果の高い形での活用について学修する。			佐藤					
3-6	看護研究と異分野融合の実際	看護学以外の学問分野との融合により生み出された看護現象のメカニズム解明やその知見に基づく機器・システム開発の実際について学修する。			四谷 佐藤 川口 嶋					
7-10	研究開発の方向性の探求 (1)	看護理論や概念を用い、異分野融合による看護実践や教育への応用、健康課題解決の可能性についてプレゼンテーションする。			四谷 佐藤 川口 嶋					
11-14	研究開発の方向性の探求 (2)	関心のある看護分野における国内外の異分野融合研究についてクリティイークし、プレゼンテーションする。			四谷 佐藤 川口 嶋					
15	看護と異分野融合の発展	看護における異分野融合による「新しい看護の創生」について総括する。			四谷					
授業の形式			授業形態							
講義			対面・遠隔（オンデマンド）・遠隔（リアルタイム） 上記の中から併用							
アクティブ・ラーニングの導入状況										
・実験／演習 • プレゼンテーション • グループワーク • ディスカッション										

到達目標	
1. 看護における異分野融合の意義や重要性、最新の研究の動向や実例について説明できる。 2. 看護におけるデータや ICT 等の技術革新の積極的な導入、費用対効果の高い形での活用について説明できる。 3. 看護における異分野融合による看護実践や教育への応用、健康課題解決の可能性について説明できる。	
準備学習（予習・復習）	
○予習 1. 授業前には文献や資料を十分に読み、興味のあるテーマや国内外の文献、ニュースなどについて調べる（1 時間／毎回） 2. 担当教員の指示に従って課題やプレゼンテーション準備に取り組む（5 時間／第 5-8 回）	
○復習 1. 講義資料を復習する（30 分／毎回）。 2. プrezentationされた内容から興味や関心のある文献などからさらに探求する（2 時間／毎回）	
成績評価方法	
討論の内容、プレゼンテーションやレポートを各教員が評価のうえ、担当教員の合議により総合的に評価する。 1. 到達目標の達成度：討論の内容、プレゼンテーションやレポートにより評価する。 2. 評価方法：討論の内容 50%，プレゼンテーション・レポート 50% 3. 評価の基準：①課題を的確にとらえているか ②内容が一貫しているか ③自己の考えが論理的に述べられているか ④看護における異分野融合の意義や重要性、最新の研究の動向や看護実践や教育への応用について説明できているか ⑤看護におけるデータや ICT 等の技術革新の積極的な導入、費用対効果の高い形での活用について説明できているか	
成績評価基準	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。	
教科書及び参考書	
特に指定しないが、教員が適宜紹介する。	
その他履修上の注意点等	
質問はメールにて受け付けます。 <学習相談助言体制> ・データや ICT・ロボット・AI 等を利活用した異分野融合型のイノベティブな看護学研究推進の観点から「、Program of Study Committee」に参画する本学大学院の他の研究科の教員を含めて学生への助言を行う。	
代表者 (氏名・E-Mail)	四谷 淳子・jyotsuya@u-fukui.ac.jp

教育研究区分 :	専門科目			科目番号 :	64SUB102		
単位数 :	2 単位	コマ数	30 コマ	開講時期 :	2 年次 通年		
授業科目名 :					キーワード :		
次世代ヘルスケア創生看護学演習 Advanced Nursing Science for Next Generation Health Care: Seminar				研究デザイン, 研究倫理, 概念分析, アウトカムモデルトサブストラクション, フィールドワーク			
担当教員名	職名／所属		Eメールアドレス				
○上原 佳子	教授／医学系部門看護学領域		uehara@u-fukui.ac.jp				
四谷 淳子	教授／医学系部門看護学領域		jyotsuya@u-fukui.ac.jp				
長谷川 智子	教授／医学系部門看護学領域		hasekatz@u-fukui.ac.jp				
佐藤 大介	教授／医学系部門看護学領域		satodai@u-fukui.ac.jp				
藤田 亮介	教授／医学系部門医学領域		rfujita@u-fukui.ac.jp				
横山 修	特命教授／医学系部門看護学領域		oyoko@u-fukui.ac.jp				
酒井 明子	特命教授／医学系部門看護学領域		sakaiaki@u-fukui.ac.jp				
宇隨 弘泰	教授／医学系部門看護学領域		huzui@u-fukui.ac.jp				
川口 めぐみ	准教授／医学系部門看護学領域		senmegu@u-fukui.ac.jp				
嶋 雅代	准教授／医学系部門看護学領域		mashima@u-fukui.ac.jp				

学修目標

- 広い視野を持って対象の健康の維持・増進およびQOLを向上させるために、事象の関係性や関連要因の分析、環境との関係性など看護学特講で獲得した異分野融合の知識や技術を活用し、専門分野における看護実践を発展させるケア開発及びシステム構築について理解する。
- 人と看護のあり方を環境や社会的側面、ライフサイクル、個別および集団へのアプローチに関して、最新のエビデンスから探し、多角的に分析および統合発展させる考え方、方法を理解する。
- 地域の健康課題やグローバル化を視点に新しい保健・医療・福祉のヘルスケアシステムの創出につながる地域的・国際的課題解決のための研究力を養う。

各回の授業の内容

(回)	(主題)	(学修内容)	(教員)
1-9	研究課題の明確化・概念分析①	研究課題を明確化するために、関心を寄せる「看護現象」を記述するための概念について検討する。 概念分析を実施し、代表的な手法について実践的に理解する。	研究指導教員
10	研究課題の明確化・概念分析②	概念分析の結果に関する学生プレゼンテーション・討議を行う。	研究指導教員
11	サブストラクション①	サブストラクションとアウトカムモデルに関する概説を通して、これらの手法について理解する。	研究指導教員
12-17	サブストラクション②	履修者の研究課題に関連する文献を使用し、サブストラクションを実施する。 研究デザインやエビデンスレベルについて理解する。	研究指導教員
18-22	フィールドワーク	研究課題に関連するフィールドに身を置き、課題に関する理解を深める。	研究指導教員
23-24	研究計画書の作成①	概念分析、サブストラクション、フィールドワークの成果を統合し、研究計画書を作成する。	研究指導教員

25-26	研究計画書の作成②	研究計画書に関するプレゼンテーションを行い、研究の意義、選択した研究デザインや研究方法の適切さ等について討議する。	研究指導教員		
27-28	倫理審査受審査準備①	倫理審査受審査のための計画書等の作成を通して、研究倫理についての理解を深める。	研究指導教員		
29-30	倫理審査受審査準備②	作成した計画書等に関するプレゼンテーションを行い、研究倫理の側面から討議する。	研究指導教員		
授業の形式		授業形態			
演習		対面・遠隔（オンデマンド）・遠隔（リアルタイム） 上記の中から併用			
アクティブラーニングの導入状況					
・実験　・演習　　・プレゼンテーション　・グループワーク　　・ディスカッション					
到達目標					
1. 履修者が関心を寄せる「看護現象」を記述するための概念を明確化することができる。 2. サブストラクションの実施を通して、研究デザインやエビデンスレベルについて理解することができる。 3. 研究課題に沿って、これまでの研究動向、現状と課題等について整理し、記述することができる。 4. 倫理的配慮を踏まえたうえで、研究計画書を作成できる。					
準備学習（予習・復習）					
○予習 1. 文献等から得られた知見や自らの考えを記述した資料を作成したうえで授業に臨む（2時間／毎回） 2. 担当教員の指示に従って課題やプレゼンテーション準備に取り組む（5時間／第5-8回）					
○復習 1. 講義資料を復習して学習内容を振り返る（30分／毎回）。 2. プrezentationされた内容から興味や関心のある文献からさらに探求する（2時間／毎回）。					
成績評価方法					
討論の内容、プレゼンテーションやレポートを各教員が評価のうえ、担当教員の合議により総合的に評価する。 1. 到達目標の達成度：討論の内容、プレゼンテーションやレポートにより評価する。 2. 評価方法：討論の内容50%、プレゼンテーション・レポート50% 3. 評価の基準：①課題を的確にとらえているか ②内容が一貫しているか ③自己の考えが論理的に述べられているか ④各自が関心領域の研究論文レビューや概念分析などから研究課題を絞り込み、研究課題達成に必要な研究方法を検討した研究計画書が作成できているか					
成績評価基準					
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。					
教科書及び参考書					
特に指定しないが、教員が適宜紹介する。					
その他履修上の注意点等					
質問はメールにて受け付けます。 <学習相談助言体制> ・データやICT・ロボット・AI等を利用した異分野融合型のイノベティブな看護学研究推進の観点から、「Program of Study Committee」に参画する本学大学院の他の研究科の教員を含めて学生への助言を行う。					
代表者 (氏名・E-Mail)	上原 佳子・uehara@u-fukui.ac.jp				

【特別研究科目】

(必修1科目8単位修得)

注)「担当教員名」の○印は、単位認定者を表す。

教育研究区分 :	特別研究科目			科目番号 :	64SRS101		
単位数 :	8 単位	コマ数	120 コマ	開講時期 :	1~3 年次 通年		
授業科目名 :	次世代ヘルスケア創生看護学特別研究 Advanced Nursing Science for Next Generation Health Care: Research				キーワード :		
				研究課題の明確化 計画書の立案 データ収集 分析 論文審査			
担当教員名	職名／所属		Eメールアドレス				
○四谷 淳子	教授/医学系部門看護学領域		jyotsuya@u-fukui.ac.jp				
長谷川 智子	教授/医学系部門看護学領域		hasekatz@u-fukui.ac.jp				
上原 佳子	教授/医学系部門看護学領域		uehara@u-fukui.ac.jp				
佐藤 大介	教授/医学系部門看護学領域		satodai@u-fukui.ac.jp				
藤田 亮介	教授/医学系部門医学領域		rfujita@u-fukui.ac.jp				
宇隨 弘泰	教授/医学系部門医学領域		huzui@u-fukui.ac.jp				
波崎 由美子	教授/医学系部門看護学領域		yuminami@u-fukui.ac.jp				
横山 修	特命教授/医学系部門看護学領域		oyoko@u-fukui.ac.jp				
酒井 明子	特命教授/医学系部門看護学領域		sakaiaki@u-fukui.ac.jp				
川口めぐみ	准教授/医学系部門看護学領域		senmegu@u-fukui.ac.jp				
本田 信治	准教授/医学系部門看護学領域		s-honda@u-fukui.ac.jp				
北野 華奈恵	講師/医学系部門看護学領域		kyoshi@u-fukui.ac.jp				
平井 孝治	講師/医学系部門看護学領域		hirai-t@u-fukui.ac.jp				
青木 未来	講師/医学系部門看護学領域		m-aoki@u-fukui.ac.jp				

学修目標

- 個々の興味・関心に従い累積した学習成果を活用し、データや ICT・ロボット・AI 等を利活用した異分野融合型のイノベティブな研究課題の焦点化、研究方法論の決定を行い、研究計画書を作成する。
- 研究計画に基づくデータ収集・分析、論文作成、発表、評価に至るまでの一連の研究過程を通して、看護学研究の研究者として自立して研究活動を実施できる能力を養い、研究能力と看護専門職としての研究的態度を修得する。

各回の授業の内容

(回)	(主題)	(学修内容)	(教員)
1- 40	研究課題の明確化と計画書の立案	1) 関連文献の精読を通して自己の興味・関心を焦点化し、研究課題を決定する。 2) 研究課題、研究方法論に関わる文献検討の結果と研究指導教員からの助言・指導に基づき、異分野融合型のイノベティブな研究計画書を完成する。	研究指導教員および研究指導補助教員
41- 80	研究計画の調整及び倫理審査 データの収集・分析	3) 倫理委員会に研究計画書を提出し、承認を得る。 4) 倫理委員会の承認後、研究計画書に基づきデータを収集する。 5) 研究計画書に基づき、データを収集・分析する。 6) 適時適切なタイミングで研究指導教員からの助言・指導を受け、データ収集・分析の適切性を評価する。	研究指導教員および研究指導補助教員
81- 120	博士論文の作成 論文審査	7) 結果・考察および結論の論述を行う。 8) 委員会が承認した研究科教授（指導教授を含ま	研究指導教員および研

	ない)による論文予備審査および論文審査を受ける。 9)最終試験として、公開論文発表会の発表および質疑応答を行う。	究指導補助教員
授業の形式	授業形態	
演習（個別指導）	対面・遠隔（オンデマンド）・遠隔（リアルタイム） 上記の中から併用	
アクティブラーニングの導入状況		
・実験・演習・プレゼンテーション・グループワーク・ディスカッション		
到達目標		
<p>1. 焦点化した研究課題の背景を述べる。</p> <p>2. 研究目的・目標に合致した研究方法論を選択する。</p> <p>3. 文献検討の結果に基づき、精度の高い研究計画書を作成する。</p> <p>4. 既存の研究方法論を正確に適用し、データを収集・分析する。</p> <p>5. 倫理的配慮に基づき、データを収集・分析する。</p> <p>6. 構成要素に沿って研究論文を作成する。</p> <p>7. 研究の概要を簡潔に説明する。</p> <p>8. 看護専門職に必要な研究的態度を述べる。</p> <p>9. 看護学研究の成果を蓄積する意義を述べる。</p>		
準備学習（予習・復習）		
○予習：指導教員・副指導教員と相談し、研究を進める。		
○復習：追加学修が必要な項目について学修する。		
成績評価方法		
研究・論文作成プロセス、研究計画書審査、博士論文予備審査、博士論文審査、公開論文発表会の発表および質疑応答内容により評価する。		
成績評価基準		
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。		
教科書及び参考書		
特に指定しないが、教員が適宜紹介する。		
その他履修上の注意点等		
<学習相談助言体制>		
<ul style="list-style-type: none"> ・研究指導教員および研究指導補助教員は、ゼミ形式の授業を基本に論文指導を行う。 また、学生個々の必要性に応じて相談・支援を行う。 ・研究指導教員は、必要に応じて、共通科目の担当教員、あるいは、研究課題に関連する分野の専門家から、研究遂行に向けた助言を得られるよう支援する。 ・データやICT・ロボット・AI等を利活用した異分野融合型のイノベーティブな看護学研究推進の観点から、「Program of Study Committee」に参画する本学大学院の他の研究科の教員を助言者として配置するものとする。 		
代表者 (氏名・E-Mail)	四谷 淳子・jyotsuya@u-fukui.ac.jp	

そ の 他

UNIVERSITY OF FUKUI

松岡キャンパス

医学部(医学科／看護学科)／附属病院

松岡

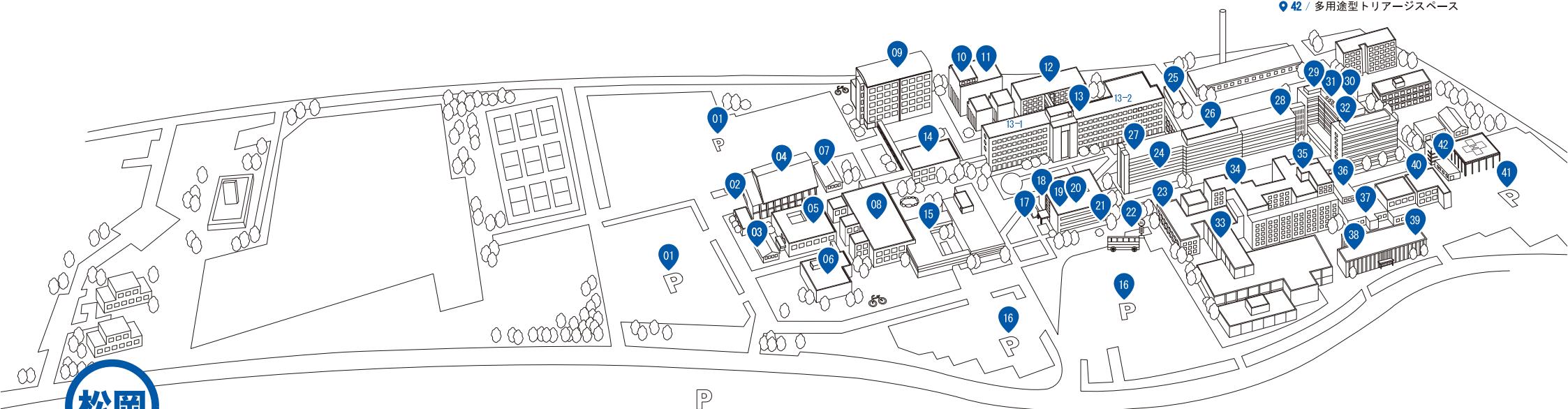
MATSUOKA

CAMPUS GUIDE



- ① / 学生・職員専用駐車場
- ② / スチュードント・アクティビティ・プラザ
- ③ / 武道場
- ④ / 体育館
- ⑤ / 福利棟
福利施設
教科書や教材の販売を行う売店や印刷室のほか、課外活動の場として利用できる。
- ⑥ / 大学生協
食堂 カフェテリアPLUM
売店 ショップPLUM
- ⑦ / 弓道場
- ⑧ / 講義棟
学生用掲示板
※詳しくは、学務課にお尋ねください。
(学年毎に掲示場所が違います)
- ⑨ / 看護学科棟
- ⑩ / 生物資源棟
- ⑪ / RI施設
- ⑫ / 院生研究棟
- ⑬ / 研究棟
13-1 / 基礎研究棟
13-2 / 臨床研究棟
- ⑭ / 基礎実習棟
学生用掲示板
※詳しくは、学務課にお尋ねください。
(学年毎に掲示場所が違います)
- ⑮ / 医学図書館
情報工房・グループラボ
言語開発センター(LDC)
- ⑯ / キャンパス便乗り場
- ⑰ / 保健センター(1F)
健康診断、予防接種、カウンセリングが受けられる。(障がいのある学生及び教職員のための相談室)
- ⑱ / マルチラーニングスペース(2F)

- ⑲ / 学生総合相談室
(障がいのある学生及び教職員のための相談室)
- ⑳ / 管理棟
松岡キャンパス学務課(1F)
証明書自動発行機
松岡キャンパス学務課内に設置してあります。
- ㉑ / 経理課(1F)
授業料などの支払い窓口。
- ㉒ / 路線バス停
- ㉓ / 時間外出入口・守衛所
学務課が閉まっている時間帯の鍵の貸出・返却。
- ㉔ / 病理解剖棟
- ㉕ / 臨床大講義室
学生用掲示板
※詳しくは、学務課にお尋ねください。
(学年毎に掲示場所が違います)
- ㉖ / 高エネルギー医学研究センター
- ㉗ / 高エネルギー治療棟
- ㉘ / 福井メディカルシミュレーションセンター
- ㉙ / 臨床教育研修センター
白翁会ホール(2F)
- ㉚ / 北病棟
- ㉛ / 東病棟
- ㉜ / 南病棟
- ㉝ / 外来・中央診療棟
- ㉞ / ATM
- ㉟ / RI治療棟
- ㉟ / MRI棟
- ㉟ / 高エネルギー治療棟
- ㉟ / 福井メディカルシミュレーションセンター
- ㉟ / 臨床教育研修センター
白翁会ホール(2F)
- ㉟ / 病院外来駐車場
- ㉟ / 多用途型トリアージスペース



15

医学図書館
情報工房・グループラボ
言語開発センター(LDC)
24時間利用可能な図書館とグループでの学習が可能な情報工房・グループラボを併設。
LDCでは英語の自主学習ができる個別ブースを設置。

管理棟

松岡キャンパス学務課(1F)

[教務グループ]
講義・単位に関すること、各種証明書、講義室の貸出。
[学生グループ]
課外活動、学生証、奨学金、授業料免除、就職、学割、保険、留学、用具、施設の貸出。
[入試グループ]
医学部の入試に関すること。

証明書自動発行機(学務課内にあります)
学割など各種証明書を発行。

P / 駐車場について

01 学生・職員専用駐車場
入構許可(ICカード)が必要です。

16 病院外来駐車場
駐車料金が必要です。
41 学生・職員は駐めないでください。



バリアフリーマップは
福井大学HPに
掲載しています。

(福井大学ホームページ > 大学案内 >
データン・キャンパスマップ >
AED・バリアフリーマップ)

UNIVERSITY OF FUKUI

文京キャンパス

教育学部／工学部／国際地域学部

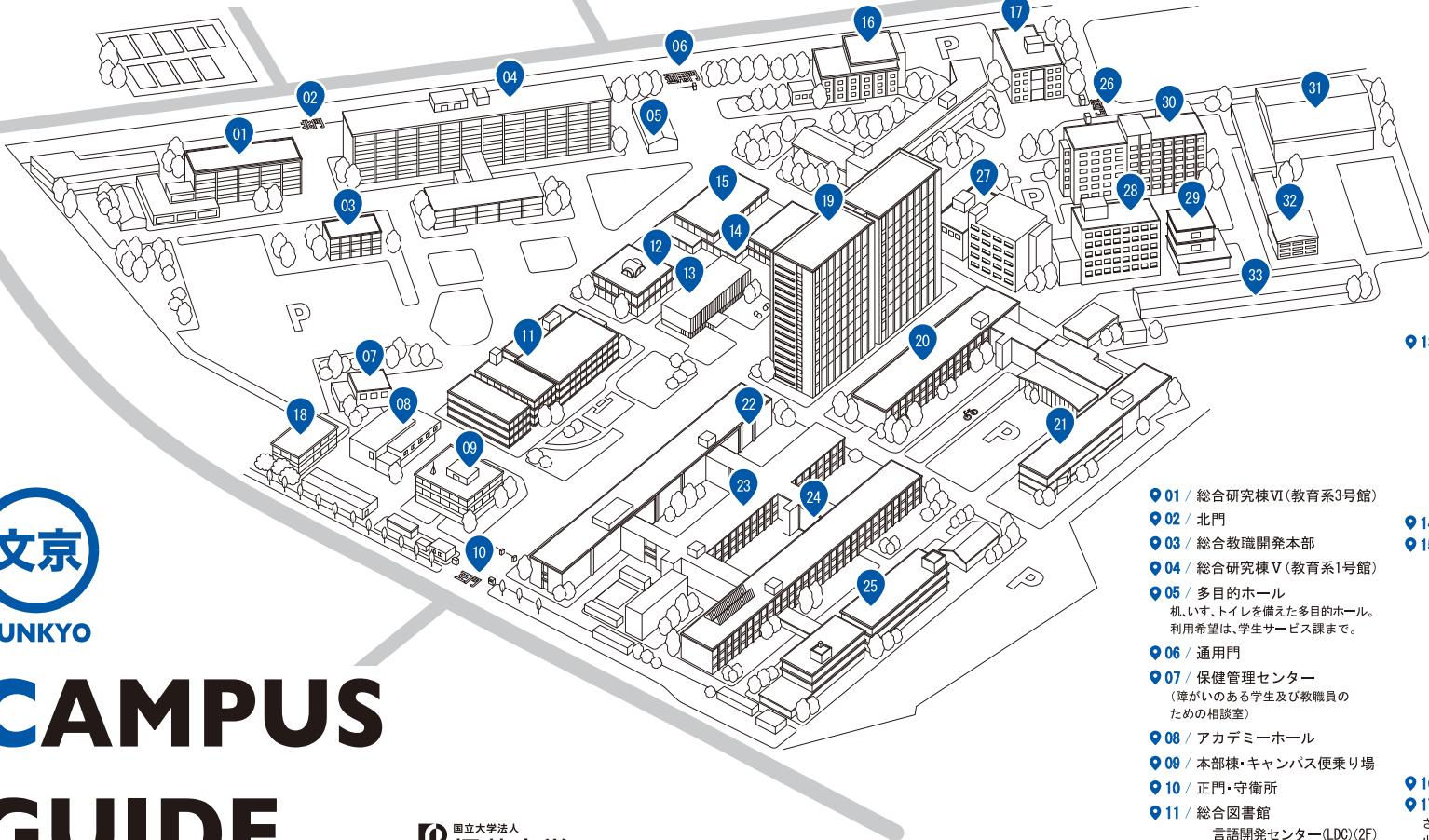


BUNKYO

CAMPUS GUIDE



国立大学法人
福井大学



- 11 / 総合図書館** 開館時間:月～金9:00～22:00、土日祝13:00～16:00
専門書はもちろん、ビデオや雑誌、福井の情報誌も取り揃えている。ラーニングアドバイザー(LA)からアドバイスも。
- 11 / 言語開発センター(LDC)(2F)** 開館時間:月～金9:00～22:00
学生が自律的に語学を学習するための施設。各種教材やeラーニングシステムなど充実の学習環境。

※駐輪場
オートバイ置場は正門、北門、東門横の3ヶ所のみ。
構内は走行禁止です。

バリアフリーマップは
福井大学HPに
掲載しています。
(福井大学ホームページ > 大学案内 >
データ > キャンパスマップ >
AD>バリアフリーマップ)



13 学生交流センター

国際課／グローバル人材育成研究センター(1F)
★セーレン グローバルハブ
留学生のサポートや海外留学の相談などに対応。

キャリア支援課(2F)
学生一人ひとりに応じたきめ細やかな進路選択を支援。

入試課(3F)
文京キャンパスの学部・大学院の入試に関する対応。

15 学生支援センター

学生用掲示板(1F)
学生生活についての掲示板。

証明書自動発行機(2F)

教務課(2F)
履修登録・時間割等の相談対応・成績証明・在学証明・
学生証などを発行。

学生サービス課(2F)
奨学金・授業料免除・学割・学生宿舎・保険・サークル活動
などの対応。

学生総合相談室(2F)
学業・生活のことなど悩みに合わせてカウンセラーが
相談に応じる。

大学生協
学生食堂 カフェテリア味菜(1F)／ショップ満天(1F)
ブックショップ明日輪(2F)

13 / 学生交流センター

- 19 / 総合研究棟 I**
- 20 / 総合研究棟IV-1(工学系2号館)**
- 21 / 総合研究棟IV-2(工学系実験棟)**
- 22 / 経理課(北側1F)** (For inquiries regarding tuition fees or dormitory expenses, please contact the Business Office on the first floor of the North side.)
- 23 / 総合研究棟III(工学系1号館)**
- 24 / 工学部生協売店** (A shop run by the Faculty of Engineering Student Association.)
- 25 / 総合研究棟VII(工学系4号館)**
- 26 / 東門**
- 27 / 産学官連携本部** (A joint office between industry, government, and the university.)
- 28 / 地域創生推進本部** (A department dedicated to regional development.)
- 29 / 研究推進課(1F)** (A department for research promotion.)
- 30 / 地域連携推進課(3F)** (A department for regional cooperation promotion.)
- 31 / 第1体育館**
- 32 / 第2体育館**
- 33 / 先端科学技術育成センター**
- 34 / グラウンド**

